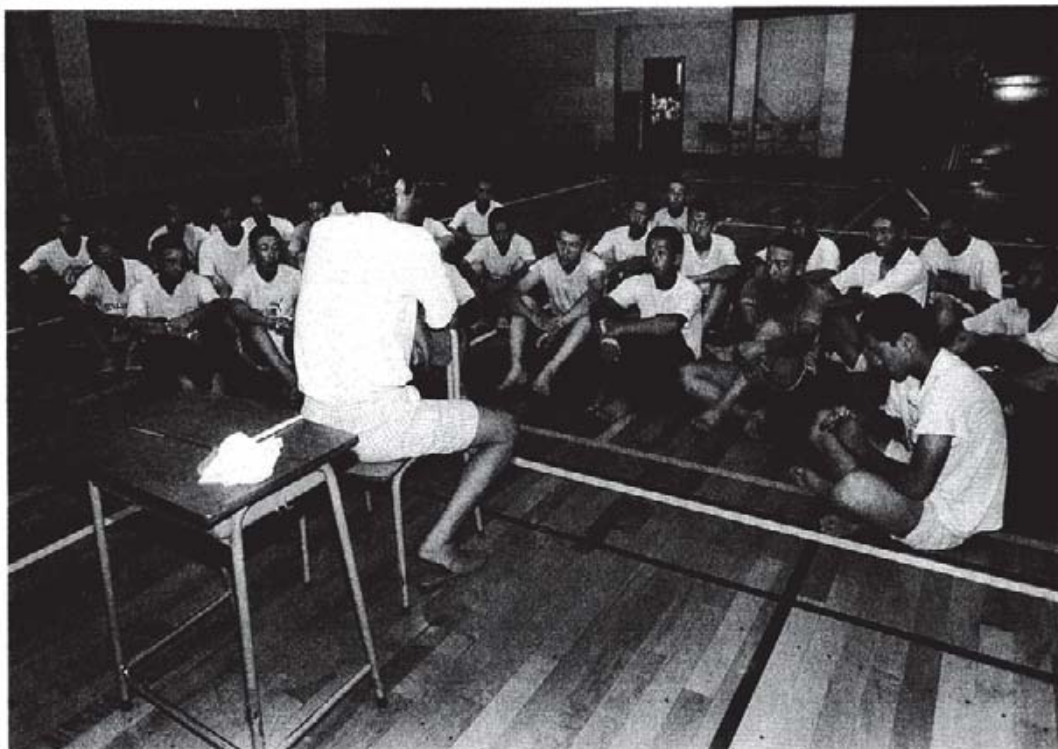


第VI章 私立高校教師の悩み・不安



現在、日本の高校の現場では、学校格差、不本意入学、中退など、様々な問題が山積している。また近年、教師間でのいじめや教師の抱えるストレスといった教師自身の問題も注目されている。

そこで、本章では、教師の悩み・不安といったものを様々な角度から考察してみたい。そこではおのずと、私立高校特有の悩み・不安だけでなく、教師という職業につきまとう普遍的悩み・不安も含まれる。

1. 教師の悩み

まず、教師の抱える悩みについて、私立高校教師のデータと公立高校教師のデータ（『モノグラフ・高校生'90』vol.28）とを比較したものが表VI-1である。

「雑用が多すぎる」が7割前後と圧倒的に多く、中でも公私とも女性教師が雑用に追われ忙しいと感じている。

その忙しさと関連してか、次に多いのが「研修の機会が少ない」という項目である。これは、公私の差はなく、女性教師が強くそう感じている。

そして次に多いのが、「生徒の考えや行動についていけない」である。これは、私立（29.9%）より公立（39.6%）で1割程度多

くなっている。

全体的に悩みを感じている割合は、私立高校教師は公立高校教師より少なくなっているようである。私立高校と公立高校で大きな差のみられる項目は、「生徒の学力レベルが低く教えがいがいい」（公立35.6%＞私立23.9%）、「生徒が騒々しくて授業を中断させられる」（公立16.2%＞私立12.2%）等であるが、これらは学校格差の影響も考えられる。首都圏においては、公立高校よりも私立高校のほ

うに進学校が多くなっており、進学率が低い学校が多い公立で、「教えがいがいい」や「生徒が騒々しい」の回答が多くなるからである。

次に、私立高校教師の中でも、年齢によって悩みにどのような差がみられるかをみてみよう（図VI-1）。

「生徒の考えや行動についていけない」という悩みは、年齢の上昇にともなって増加している。生徒との年齢差が開くにつれ、ジェ

表VI-1 教師の悩み × 公私・性別

(%)

| | 公立全体 | 私立全体 | 公立 | | 私立 | |
|----------------------|------|--------|------|------|------|------|
| | | | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 |
| 生徒の考えや行動についていけない | 39.6 | > 29.9 | 39.6 | 39.6 | 30.1 | 29.3 |
| 自分の専門的な力量に自信がない | 26.0 | 29.3 | 22.5 | 40.4 | 25.9 | 37.6 |
| 生徒が騒々しくて授業を中断させられる | 16.2 | > 12.2 | 14.9 | 21.3 | 12.2 | 12.3 |
| 生徒の学力レベルが低く教えがいがいい | 35.6 | > 23.9 | 35.9 | 34.4 | 24.0 | 23.6 |
| 自信をもって進路指導ができない | 18.4 | 17.5 | 16.5 | 26.7 | 15.4 | 22.6 |
| 保護者と連絡をとったりするのが苦痛である | 11.2 | 9.3 | 10.3 | 14.4 | 9.0 | 10.2 |
| 部活動の指導が負担である | 23.1 | 15.6 | 22.0 | 27.3 | 25.4 | 16.2 |
| 校務分掌の仕事がうまくこなせない | 8.6 | 10.2 | 8.4 | 9.1 | 10.1 | 10.5 |
| 雑用が多すぎる | 74.6 | > 69.7 | 73.7 | 78.6 | 66.1 | 78.3 |
| 研修の機会が少ない | 62.7 | 62.4 | 59.6 | 75.3 | 58.0 | 73.2 |
| 教師という職業が自分に向いていない | 15.9 | 15.0 | 13.9 | 24.3 | 13.0 | 19.7 |

（「とても+かなり感じている」割合）

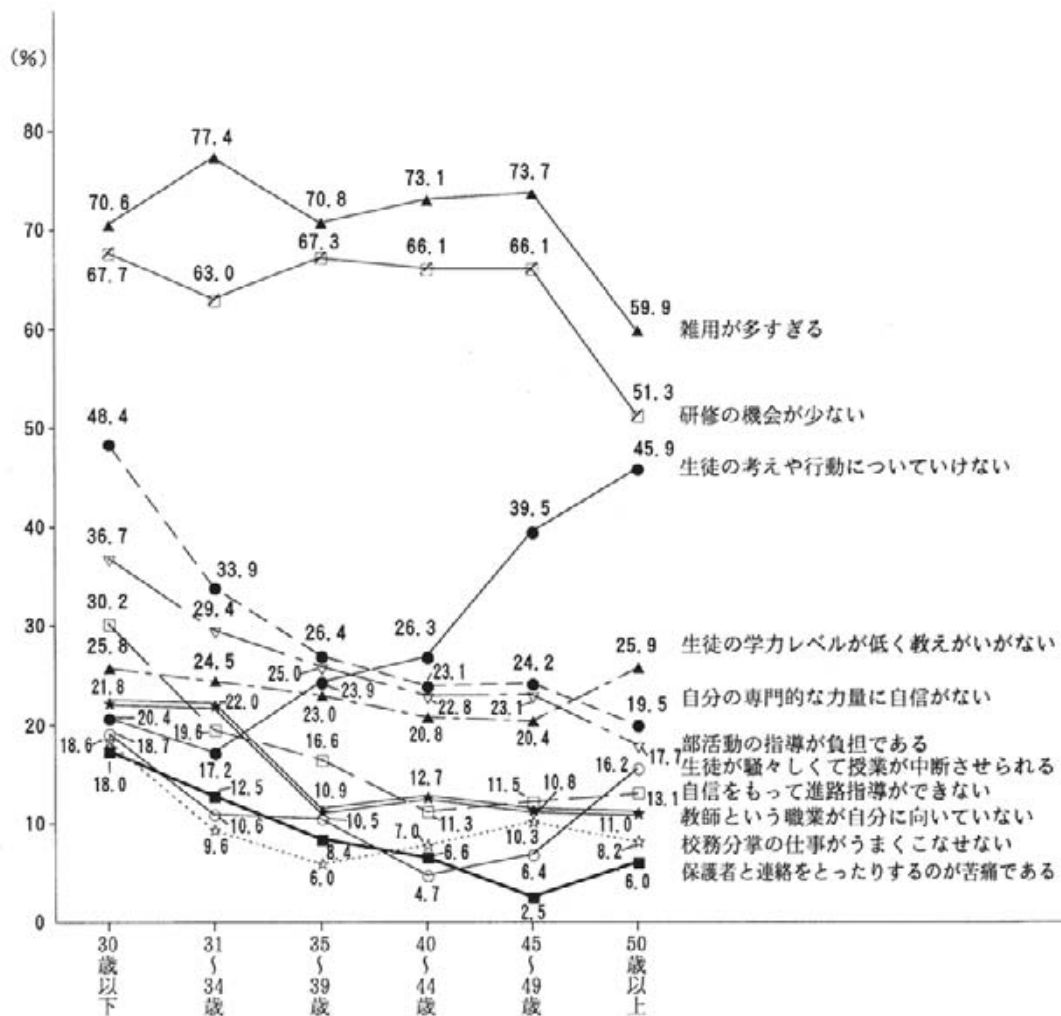
ネレーションギャップを強く感じていく様子
がうかがえる。

残りの項目はほぼすべて、若年層で高く、
年とともに減少して、教師の悩みが解消して
いく様子が見られる。若手教師に悩み・不
安が多いのである。「自分の専門的な力量に
自信がない」(30歳以下48.4% > 45～49歳
24.2%)、「生徒が騒々しくて授業を中断させ
られる」(18.7% > 6.4%)、「自信をもって生
徒の進路指導ができない」(30.2% > 11.5%)

という結果からもわかる通り、若手教師が教
師としての自分の力量に自信がもてず、悩ん
でいる様子が見られる。

「雑用が多すぎる」「教師という職業が自
分に向いていない」の項目については31歳か
ら34歳の層が最も高くなっているが、これは、
この層に学級担任をしている者の割合が一番
高くなっている、ということと関連があるの
ではないだろうか。

図VI-1 教師の悩み（「とても+かなり感じている」割合）×年齢



2. 教師の不安

次に、悩みとの関連で、教師がどのような不安を抱いているかの分析を試みたい（表VI-2）。

まず全体では、「人間関係に気をつかう」「異動が自由にできない」「努力しても報いられない」の項目が高い数字を示している。

公立高校との比較ができないため、これらが私立高校教師の特性であるか否かの判断は難しいが、「異動が自由にできない」が10項目の中で2番目に多くなっているということ

からもわかるように、やはり私立高校では教師の異動が少なく、そしてそのことに対して不安を感じる者が3割近くもいる、ということが明らかとなった。“風通しの悪い”職場が「人間関係に気をつかう」（43.5%）ということにつながっているという可能性も指摘できよう。「努力しても報いられない」（20.5%）については、生徒の教えがいや昇進の問題が関連していると考えられる。

女性教師には、「異動が自由にできない」

表VI-2 教師の不安 × 年齢

| | (%) | | | | | | | | |
|------------|------|-------------|------|-------|--------|--------|--------|--------|-------|
| | 全体 | 性別 | | 年齢 | | | | | |
| | | 男性 | 女性 | 30歳以下 | 31~34歳 | 35~39歳 | 40~44歳 | 45~49歳 | 50歳以上 |
| 人間関係に気をつかう | 43.5 | 41.7 < 48.2 | | 46.2 | 48.1 | 42.3 | 42.5 | 49.3 | 37.7 |
| 異動が自由にできない | 26.5 | 24.5 < 31.6 | | 32.4 | 35.6 | 31.8 | 26.6 | 19.9 | 15.8 |
| 理事長や校長との不和 | 10.9 | 11.1 | 10.4 | 8.6 | 13.3 | 13.0 | 9.5 | 10.1 | 11.1 |
| 先輩教師との不和 | 5.6 | 6.1 | 4.5 | 3.6 | 9.0 | 8.5 | 5.7 | 3.8 | 4.3 |
| 校風になじまない | 10.3 | 9.7 | 11.9 | 17.5 | 11.9 | 9.5 | 10.4 | 6.4 | 5.7 |
| 身分保障が不十分 | 12.4 | 12.7 | 12.0 | 19.8 | 18.2 | 10.5 | 9.1 | 10.9 | 7.0 |
| 同僚との給与格差 | 5.4 | 5.7 | 4.7 | 5.8 | 6.6 | 5.0 | 3.3 | 5.7 | 5.7 |
| 努力が報われない | 20.5 | 21.2 | 18.9 | 23.6 | 29.1 | 22.5 | 16.2 | 21.0 | 14.2 |
| 勤務時間が長い | 19.1 | 15.8 < 27.6 | | 27.8 | 26.6 | 23.4 | 14.6 | 14.2 | 9.8 |
| 学閥がある | 5.8 | 4.9 < 8.3 | | 8.3 | 7.1 | 3.0 | 4.2 | 8.9 | 4.3 |

「とても+かなりある」割合
 = 最大値

「補習授業などで勤務時間が長い」「人間関係に気をつかう」など、“女性役割”に関連した不安が多い。

年齢別にみると、悩みの場合と同じように、年齢の上昇にともなって、不安は減少傾向にある。しかし、このデータでは31歳から34歳の層に最大値が多くなっており、この年代の教師像として、次のような姿が浮かびあがってくる。教壇に立ってから10年前後。新参若手教師とはいえ、かといってベテラン教師の域にも達していない。学級担任をしていて

雑用が多く、忙しい生活を送っている割には、給与の面でも生徒の反応においても努力が報われない。管理職や先輩教師ともいまひとつしっくりいかず、教師という職業そのものが、自分には向いていないのではないか、という思いが頭をもたげてくる――。

この年齢層の教師には、様々な要因を背景に、教師としてのアイデンティティーに揺らぎが生じている、ということがいえるのかもしれない。

3. 勤務校への満足度

次に、悩みとの関連で、現在の学校に満足しているか否かをみていき、満足している教師にはどのような特性があるのか、また不満を抱えている教師について、その不満の背後には何があるのか、を考察していきたい。

まず、全体でみると（表VI-3）、「とても満足している」+「かなり満足している」の“満足グループ”が6割、「あまり満足していない」+「まったく満足していない」の“不満グループ”が4割となっている。男女差はほとんどみられないが、これを学校格差でみると、満足グループは4年制大学進学率30%以下の学校で45.9%、進学率90%以上の学校で71.6%と、進学校と非進学校では大きな差がみられる。学校ランクの高低が、勤務校への満足度を規定している、といえよう。

次に年齢別に満足度をみたものが図VI-2である。30歳以下の若手教師層では、満足グループが52.7%、不満グループが47.3%であったものが、50歳以上のベテラン層では満足グループが72.4%、不満グループが27.6%と年齢層の上昇にともなう満足グループの増加、不満グループの減少が顕著である。この結果は年齢が高くなるにつれ、悩みや不満が減少していくことに対応していると考えられよう。また、前にみたように、高年齢層は進

学校に多いことから、学校格差の影響も考えられる。

45歳から49歳の層が最も不満の大きい層となっているが、表VI-2でみたように、この層は人間関係に関する不安、学閥に対する不満が最も多くなっている層であり、また「生徒についていけない」「雑用が多すぎる」「校務分掌の仕事がうまくこなせない」という悩みが、2番目に多い層でもある。

担当教科別に、現在の学校への満足度（とても+かなり）を高い順にあげると、数学（63.5%）、英語（63.1%）、国語（62.1%）、理科（59.6%）、体育（58.8%）、社会（56.0%）、その他（54.5%）、家庭（52.1%）、芸術（51.0%）となり、入試に重要な科目、いわゆる“主要”教科の担当教師と体育の教師に満足グループの割合が高くなっていることがわかる。入試に必要な科目ということが、教えがいや自負心などの点に何らかの影響を及ぼしているのではないだろうか。

以上、基本的な属性別に満足度をみてきたが、ではこの満足グループと不満グループを分離、形成させる要因には、どのようなものが考えられるのだろうか。

まず、授業への自信と学校満足度との関係を見ると、現在授業に自信をもっている者は、

学校への満足（とても＋かなり）が不満（あまり＋まったく満足していない）を上回っているのに対し、現在授業に自信をもっていない者は、学校へ満足31.5%、不満40.4%と、満足より不満のほうが多い。授業への自信がもてるか否かは、教師自身のパーソナリティー、生徒の質、教師間関係等、様々な要因によって規定されると考えられるが、授業への自信の有無が、満足度に影響を及ぼしていることは確かである。

次に、不安と満足度の関係をみたものが、図VI-3である。満足グループと不満グループで、大きな差のみられたものをみることで、満足度を規定する要因のいくつかを推測することが可能になる。大きな差のみられた項目は、順に①「努力しても報いられない」（満足グループ8.7%<不満グループ38.1%）、②「異動が自由にできない」（16.5%<41.5%）、③「人間関係に気をつかう」（34.1%<56.3%）となっている。つまり努力の成果を感じることができず、職場の人間関係に気をつかい、他の学校等に異動したくとも身動きならないというような状況が、不満グループを形成させる背後にある、ということが考えられよう。

同様に、現在の学校に魅力を感じた点と学校への満足度の関係をみたものが、図VI-4である。満足グループと不満グループの間に大きな差のみられた項目は順に、①「自分の

力が十分出せそう」（満足グループ71.9%>不満グループ39.8%）、②「生徒の質が高そう」（37.2%>13.9%）、③「建学の精神に共鳴」（44.8%>22.6%）となっている。学校の基本的な教育方針に共鳴ができ、高い質の生徒の中で、自信をもって授業、指導ができるという状況が、満足グループを形成していく重要な要因の1つといえよう。このような要因に影響されながら形成された、満足グループと不満グループでは、日常の教師生活の中で、どのような差がみられるだろうか。

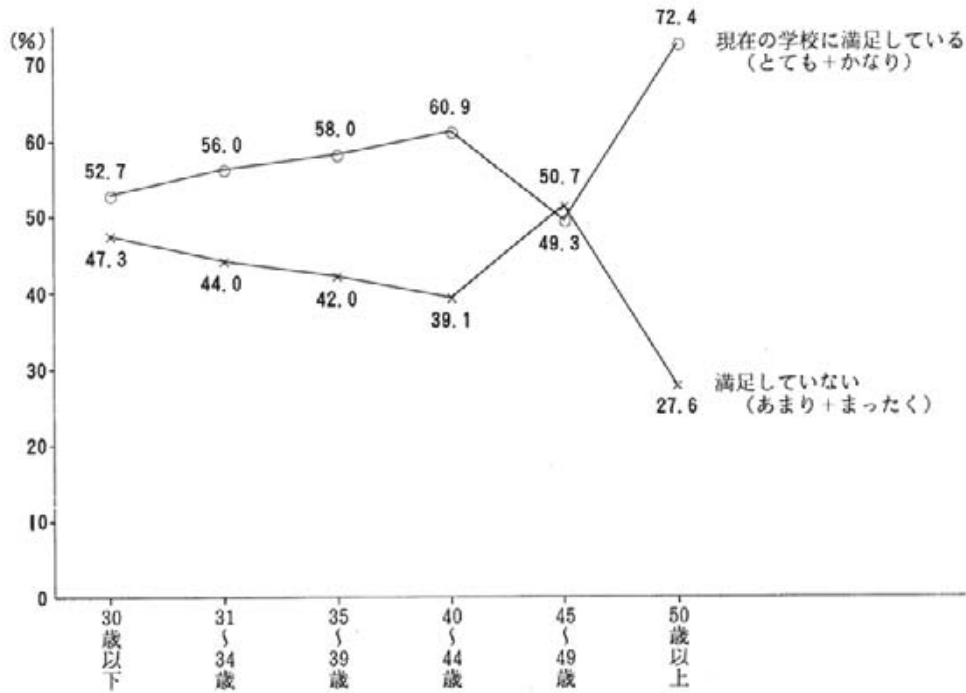
生徒との関わり方をみてみたものが、表VI-4である。満足グループは、不満グループに比べて積極的に生徒に働きかけ、また生徒からも、質問されたり、相談やあいさつをうけたりする割合が高くなっている。つまり、学校への満足度は、生徒とのコミュニケーションとも強い関連がみられるのである。教師の満足が良好な生徒-教師関係を作り、さらにそれが教師の満足度、ひいては生徒の満足度をも高める、ということが考えられる。このような構図は、授業に対する積極的姿勢という点にもみられる。例えば「手作りの資料を作る」「小テストをする」「担当教科の専門書を読む」教師の学校への満足度は高い。教師の満足度は、高校教育全体の問題につながっていく極めて重要なファクターであるといえよう。

表VI-3 勤務校への満足度 × 性別・学校格差

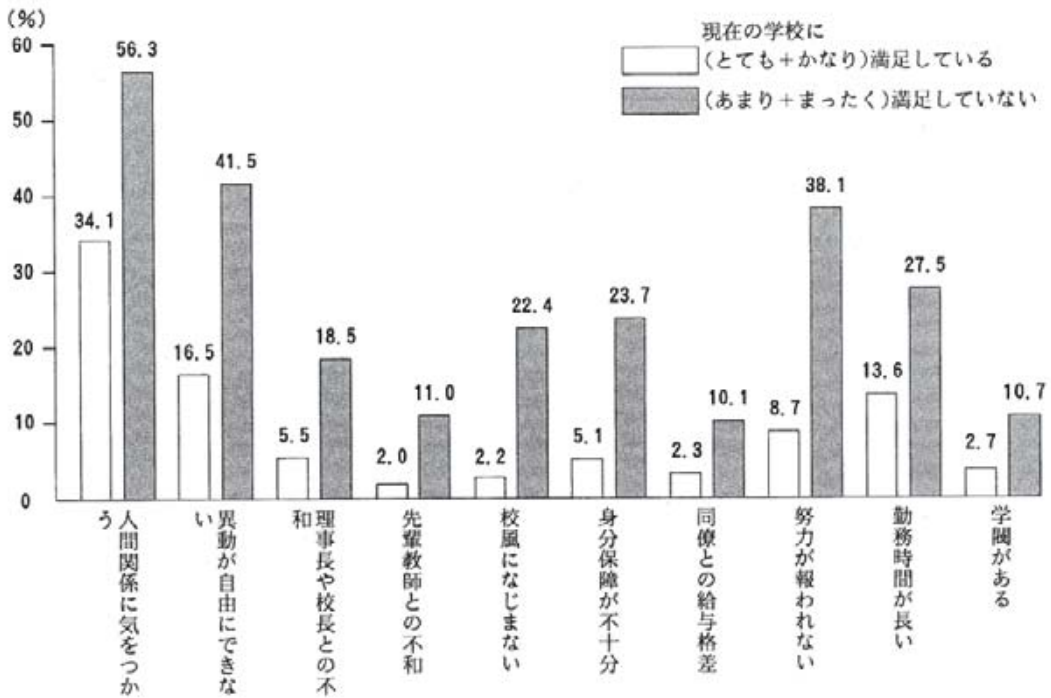
(96)

| | 全体 | 性別 | | 4年制大学進学者の割合 | | | | |
|--------------------------------|------|------|------|-------------|--------|--------|--------|-------|
| | | 男性 | 女性 | 30%以下 | 30~59% | 60~79% | 80~89% | 90%以上 |
| とても満足している + かなり満足している | 59.9 | 60.1 | 59.2 | 45.9 | 66.5 | 66.0 | 67.2 | 71.6 |
| あまり満足していない + まったく満足していない | 40.1 | 39.9 | 40.8 | 54.1 | 33.5 | 34.0 | 32.8 | 28.4 |

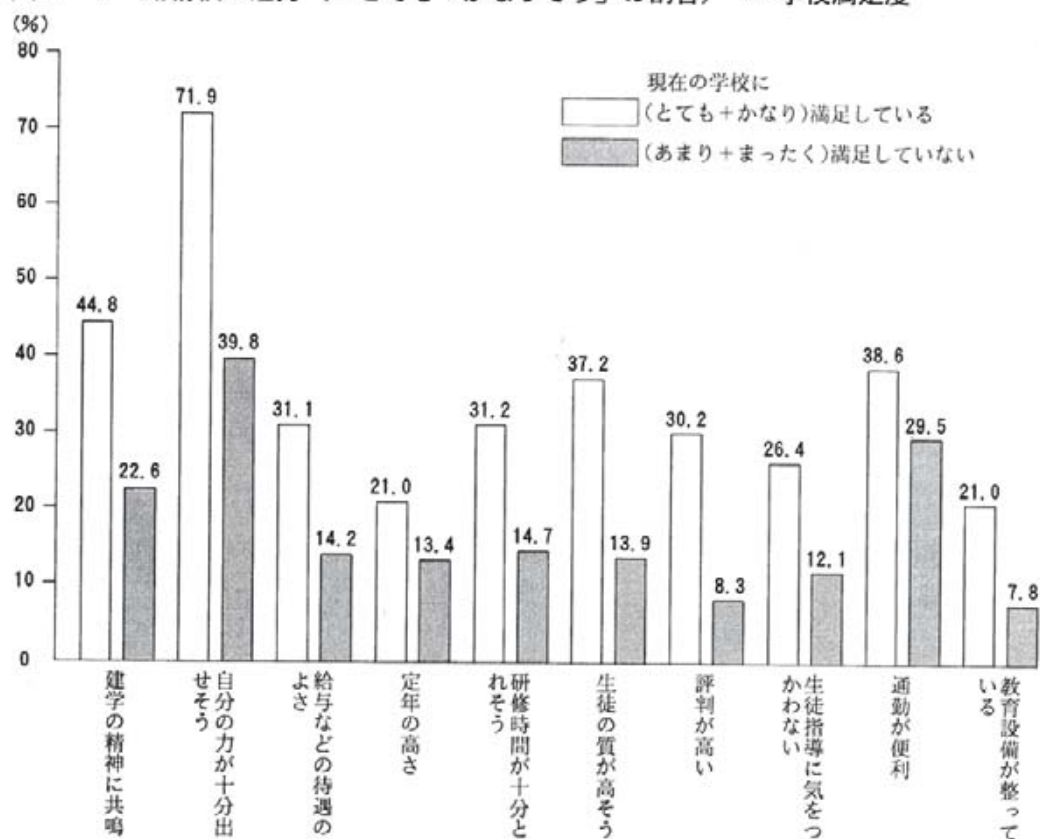
図VI-2 学校満足度 × 年齢



図VI-3 教師の不安 (「とても+かなりある」割合) × 学校満足度



図VI-4 勤務校の魅力（「とても+かなりそう」の割合） × 学校満足度



表IV-4 生徒との関わり方 × 学校満足度

(%)

| | 満足している (とても+かなり) | | 満足していない (あまり+まったく) |
|----------------|------------------|---|--------------------|
| 授業中よくできた生徒をほめる | 43.6 | > | 38.0 |
| 授業中態度の悪い生徒を叱る | 41.7 | > | 40.1 |
| 教科内容を生徒から質問される | 34.6 | > | 26.1 |
| 生徒から個人的な相談を受ける | 23.0 | > | 22.1 |
| 生徒からあいさつされる | 79.7 | > | 74.7 |
| 自分から生徒に声をかける | 56.9 | > | 52.6 |
| 生徒と廊下や職員室で話す | 52.5 | < | 53.6 |
| 生徒と一緒に掃除をする | 45.2 | > | 44.7 |

(「よくある」割合)

4. まとめ

以上の分析で得られた結果をまとめながら若干の考察をつけ加えたい。

まず、教師の悩みとしては、「雑用が多すぎる」「研修の機会が少ない」ということが圧倒的に多い。雑用の多さが、授業への準備や生徒一人一人とのふれ合いの時間を減少させており、このことに対する教師の不満はかなり大きい。また若年層の教師に悩み、不安が多くなっており、年齢の上昇とともに、これらの減少がみられる。経験の浅い若手教師が自身の力量不足故に悩みや不安を抱くのは、ごく自然なことではあるが、熟年のベテラン教師によるサポートが十分に行われることが重要だと考えられる。年齢の上昇とともに悩みや不安が減少する、ということに関しては、教師としての力量に自信がもてるようになり、満足度が高まった、ということが考えられる一方で、授業やクラブ指導に対する意欲の減退、慣れから生じる向上心の喪失、といったような傾向が考えられ、悩みや不安の減少は一概によろこばしいことであるとはいえない。

学校格差が、悩み、不安、満足度を規定す

る大きな要因となっている、ということについては、教育困難校の問題とも関連して、今後の大きな課題となろう。

私立高校において、教師が勤務校に満足し、生き生きとした教師生活をおくるための条件として、①学校の基本的な教育方針に共鳴できること、②努力の成果を感じることができること、③人間関係に気をつかわなくてもよいこと、④生徒の質が高いこと、⑤自分の力が十分に発揮できる環境にあること、⑥異動が自由にできること、等があげられる。教師の異動の少ない私立高校では、教師集団の特性として、結束が固い、ということがいえるが、これは逆にいうと、“風通しの悪い”閉鎖的な職場状況を生む要因にもなるわけであり、このことが、私立高校教師に人間関係の不安や異動の不自由を感じさせる原因にもなっている。教師自身が学校に、教師という仕事に心から満足し、生き生きと活動できることが、生徒の満足度と同等、もしくはそれ以上に重要な課題になるといえるかもしれない。

第Ⅶ章 職業としての私立高校教師



この章では職業としての私立高校教師をとりあげる。「職業」とは何か。ふつう一般には「生計の維持」「個性の発揮」「役割の実現」の3つの側面をもっている。特にここでは「役割の実現」にスポットを当てていくことにする。そして、以下の3つの点で分析をすることにする。まず、「現在ついている役割」を手がかりに、組織としての学校におい

での教師の「役割」について明らかにする。その際に性別、年齢、担当教科、勤務年数別に考察する。第2には「教師のあり方」を中心にして、現在私立高校教師が必要と感じている能力について、公立高校教師との比較をまじえて明らかにする。最後に私立高校教師の勤続意識や転職・転勤意識が形成されるメカニズムをデータから読みとる。

1. 私立高校教師の役職

人は組織で働くことによって、その組織文化を内在化していく。それは組織がその組織で働く人を同質化する力をもっていることを意味している。さらにいえば、組織の中の役割や組織の固有の価値意識が、そこで働く人

の行動や意識を規定する要因になるのである。もちろんその要因は私立高校で働く「教師」を規定している。組織で働く者は必ずその組織から様々な形で規定されている。

ここで「役職」をとりあげたのは、役職が

教師を規定する主要な要因として学校から付与されるものであると考えたことと、本論のテーマである「役割の実現に焦点を当てること」との対応関係を考慮したことによる。

分析の結果、以下3つのことがわかる。第1に、全体としてみると、「主任または部長ではない」無役職の者が半数いることである。さらにこれを性別でみると、役職についていないのは女性教師のほうが多いことがわかる。(表Ⅶ-1)。次に年齢別にみると、30歳以下では82.2%、31~34歳では65.3%が役職についていない。50歳以上でも30.1%が役職についていないことがわかる。

第2に年齢と現在校の勤務年数(表Ⅶ-2)の2つをみると、「学年主任」や「その他の主任・部長」にはポストが多いために30歳代、勤務年数が10年未満の若い教師でもつ

くことができる。「校長や教頭」「教務主任または部長」は、年齢、勤務年数がものをいうのはいうまでもないが、勤務年数の少ない「途中採用」「ひき抜き採用」と思われる層もわずかであるが確認できる。

第3に担当教科(表Ⅶ-3)との関わりからみると、教科によって、ついている「役職」に違いがみえる。「校長・教頭」の4人に1人が英語教師、5人に1人が理科教師である。「総務または庶務」の半数(46.2%)が英語と社会教師、「進路指導」の4人に1人が国語教師、「生活指導」の5人に1人は国語の教師もしくは体育の教師であることがわかる。「厚生・保健」では半数が体育教師で占められている。また数学教師は特定の「役職」に集中せず、広範に役職についている。

表Ⅶ-1 役職 × 性別・年齢

(%)

| | 全体 | 性別 | | 年齢 | | | | | |
|-------------|------|--------|------|-------|--------|--------|--------|--------|-------|
| | | 男性 | 女性 | 30歳以下 | 31~34歳 | 35~39歳 | 40~44歳 | 45~49歳 | 50歳以上 |
| 校長・教頭 | 2.2 | 2.6 > | 0.9 | 0.0 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | 0.7 | 7.0 |
| 教務主任または部長 | 5.3 | 5.9 > | 3.5 | 0.0 | 1.1 | 4.8 | 4.5 | 8.2 | 10.5 |
| 総務または庶務 | 2.0 | 2.4 > | 0.9 | 0.9 | 3.2 | 1.6 | 2.0 | 1.4 | 2.6 |
| 進路指導 | 5.7 | 5.9 | 5.2 | 3.0 | 5.3 | 2.1 | 7.1 | 8.2 | 7.9 |
| 生活指導 | 5.2 | 5.1 | 5.5 | 2.6 | 5.9 | 5.3 | 6.6 | 5.5 | 5.5 |
| 厚生・保健 | 1.2 | 0.6 < | 2.9 | 2.2 | 1.1 | 1.1 | 1.5 | 1.4 | 0.6 |
| 学年主任 | 11.4 | 11.8 | 10.1 | 5.2 | 5.9 | 9.0 | 17.2 | 18.5 | 13.4 |
| その他の主任・部長 | 17.0 | 17.8 | 15.0 | 3.9 | 11.7 | 20.2 | 19.7 | 24.0 | 22.4 |
| 主任または部長ではない | 50.0 | 47.9 < | 56.0 | 82.2 | 65.3 | 55.4 | 40.9 | 32.1 | 30.1 |

表Ⅶ-2 役職 × 勤務年数

(%)

| | 勤 務 年 数 | | | | |
|-------------|---------|-------|-------|---------|--------|
| | 1～3年目 | 4～6年目 | 7～9年目 | 10～20年目 | 21年目以上 |
| 校長・教頭 | 0.6 | 0.7 | 0.0 | 0.7 | 5.3 |
| 教務主任または部長 | 0.0 | 1.3 | 0.6 | 5.3 | 10.8 |
| 総務または庶務 | 0.0 | 1.3 | 3.1 | 2.2 | 2.5 |
| 進路指導 | 2.5 | 2.6 | 4.3 | 6.0 | 8.3 |
| 生活指導 | 2.5 | 3.3 | 4.9 | 6.3 | 6.0 |
| 厚生・保健 | 1.9 | 1.3 | 1.2 | 1.2 | 1.0 |
| 学年主任 | 3.7 | 6.6 | 8.6 | 13.3 | 15.3 |
| その他の主任・部長 | 1.2 | 6.6 | 19.1 | 20.8 | 22.5 |
| 主任または部長ではない | 87.6 | 76.3 | 58.2 | 44.2 | 28.3 |

表Ⅶ-3 役職 × 担当教科

(%)

| | 担 当 教 科 | | | | | | | | |
|-------------|---------|------|------|------|------|-----|------|------|------|
| | 英語 | 国語 | 数学 | 社会 | 理科 | 芸術 | 家庭 | 体育 | その他 |
| 校長・教頭 | 25.0 | 10.7 | 7.1 | 17.9 | 21.4 | 0.0 | 0.0 | 3.6 | 14.3 |
| 教務主任または部長 | 19.2 | 16.2 | 16.2 | 17.6 | 17.6 | 5.9 | 2.9 | 4.4 | 0.0 |
| 総務または庶務 | 23.1 | 7.7 | 11.5 | 23.1 | 15.4 | 7.7 | 0.0 | 0.0 | 11.5 |
| 進路指導 | 13.5 | 24.2 | 14.9 | 17.6 | 13.5 | 4.1 | 4.1 | 2.7 | 5.4 |
| 生活指導 | 12.1 | 22.7 | 9.1 | 10.6 | 10.6 | 0.0 | 6.1 | 21.2 | 7.6 |
| 厚生・保健 | 6.3 | 0.0 | 6.3 | 0.0 | 6.3 | 6.3 | 18.7 | 49.8 | 6.3 |
| 学年主任 | 16.3 | 15.6 | 13.6 | 19.8 | 13.6 | 4.8 | 4.1 | 6.1 | 6.1 |
| その他の主任・部長 | 13.7 | 13.2 | 12.3 | 18.2 | 18.2 | 4.5 | 4.5 | 10.9 | 4.5 |
| 主任または部長ではない | 18.0 | 19.6 | 16.0 | 15.2 | 15.0 | 2.2 | 2.8 | 7.0 | 4.2 |

2. 教師のあり方にみる教師観

私立高校教師が必要と感じる能力を明らかにするために、こちらで用意した項目から私立高校教師として必要（とても＋かなり）と思うことを取り出し、私立高校教師の回答の割合の高い順にならべたのが表Ⅶ-4である。

私立高校教師をみると、「進学相談に適切な指導ができる」がもっとも高い数値であった。以下、「ホームルームの運営がうまい」「問題を起こした生徒を諭す」「学年全体の調和を考えて行動する」「欠席した生徒の家に電話する」といった学校・学級運営に関わる項目に私立高校教師としてのあり方が必要としていることがわかる。また、公立高校教師においても同様に、学校・学級運営が必要とされていることがわかる。これに対して、公立・私立ともに「38度の熱があっても無理して学校へ行く」や、「学級通信をこまめに出す」「人気のテレビ・マンガに目を通す」といった生徒接近型の教師役割はあまり期待されていないと思っている。

さらに私立と公立で比較した場合、以下の2つに違いがあった。まずは、私立高校教師のほうが公立高校教師よりもかなり授業に重点をおいていることである。そのことは「専門性の高い授業をする」では私立高校教師の61.3%が必要であると回答しているのに対し、公立高校教師は43.3%しか必要であると回答していないこと。また「大学入試に役立つ授業をする」でも同様に、私立高校教師の60.4

%が必要と回答し、公立高校教師の38.9%が必要という回答を大きく上回っていることから、私立高校教師のほうが授業に重点を置いていることがわかる。第2に明らかなことは、公立高校ではこの進学に対する授業に関する項目が「部活動を熱心に指導する」「昼休みなど気軽に生徒と雑談する」項目や、「一声で生徒を静かにさせられる」よりも低く位置づけられていること。公立高校では私立高校よりも進学に関する授業以外（例えば規則や生活習慣の指導など）に重点が置かれている。

上記の傾向をさらに教科担当別にみると、私立高校教師でもっとも必要とされている「生徒からの進学相談に適切な指導ができる」は全教科の教師が必要と感じている。また「ホームルームの運営がうまい」「問題を起こした生徒を諭す」では芸術担当の教師がもっとも必要と感じ、「欠席した生徒の家に電話する」「学年全体の調和を考えて行動する」では家庭科担当の教師が必要と感じている。これに対して体育教師は「部活動を熱心に指導する」「38度の熱があっても無理して学校へ行く」を必要と感じていることがわかる。

教科担当別にみた場合、もっとも特徴的なのは、数学の教師が芸術・家庭科教師とは対照的に生徒との関わりや学年全体との調和の必要性をあまり感じていないことがわかる。

表Ⅶ-4 教師のあり方 × 担当教科

(%)

| 順位 | | 私立 | 公立 | 担 当 教 科 | | | | | | | | |
|----|---------------------|------|------|---------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | | | | 英語 | 国語 | 数学 | 社会 | 理科 | 芸術 | 家庭 | 体育 | その他 |
| 1 | 進学相談に適切な指導ができる | 89.2 | 76.0 | 91.7 | 90.2 | 89.5 | 88.0 | 88.7 | 89.8 | 90.0 | 88.6 | 83.0 |
| 2 | ホームルームの運営がうまい | 85.0 | 81.6 | 87.4 | 89.8 | 85.0 | 81.9 | 81.8 | 93.7 | 88.0 | 78.7 | 81.2 |
| 3 | 問題を起こした生徒を諭す | 81.0 | 80.6 | 80.7 | 82.9 | 76.4 | 83.6 | 81.4 | 87.0 | 86.0 | 77.7 | 75.4 |
| 4 | 学年全体の調和を考えて行動する | 75.3 | 75.4 | 74.7 | 78.3 | 70.0 | 72.0 | 78.0 | 79.6 | 81.2 | 75.2 | 76.6 |
| 5 | 欠席した生徒の家に電話する | 65.8 | 61.6 | 65.6 | 70.0 | 58.5 | 64.0 | 64.5 | 61.2 | 73.0 | 69.0 | 73.8 |
| 6 | 専門性の高い授業をする | 61.3 | 43.3 | 61.3 | 63.8 | 60.5 | 67.4 | 55.9 | 61.2 | 46.0 | 61.2 | 58.4 |
| 7 | 大学入試に役立つ授業をする | 60.4 | 38.9 | 75.7 | 63.3 | 56.0 | 58.2 | 54.9 | 56.2 | 49.0 | 55.8 | 50.7 |
| 8 | 部活動を熱心に指導する | 57.2 | 58.5 | 47.2 | 57.0 | 55.0 | 56.1 | 57.3 | 63.2 | 52.0 | 81.4 | 62.5 |
| 9 | 気軽に生徒と雑談する | 54.6 | 54.8 | 50.0 | 59.4 | 50.0 | 58.9 | 55.9 | 54.2 | 52.0 | 52.7 | 53.8 |
| 10 | 一声で生徒を静かにさせられる | 54.4 | 58.2 | 56.7 | 56.0 | 45.5 | 53.6 | 53.7 | 72.9 | 48.0 | 60.7 | 50.0 |
| 11 | 校長や教頭の意見を聞く | 51.7 | 28.3 | 51.9 | 50.6 | 50.2 | 45.1 | 54.4 | 63.8 | 66.0 | 53.1 | 52.3 |
| 12 | 38度の熱があっても無理して学校へ行く | 21.1 | 14.2 | 17.0 | 20.0 | 19.6 | 18.1 | 20.6 | 27.1 | 28.0 | 32.1 | 21.5 |
| 13 | 学級通信をこまめに出す | 19.1 | 19.4 | 16.4 | 20.7 | 18.5 | 21.4 | 20.1 | 25.0 | 18.0 | 13.4 | 20.3 |
| 14 | 人気のテレビ・マンガに目を通す | 10.2 | 10.8 | 8.9 | 13.7 | 5.0 | 10.3 | 6.9 | 23.4 | 20.0 | 8.0 | 12.3 |
| 15 | 雑誌や参考書に執筆する | 8.7 | 3.7 | 7.9 | 8.7 | 5.0 | 8.2 | 12.5 | 19.1 | 8.0 | 8.8 | 6.1 |

(「とても+かなり必要」の割合) ○ = 最大値
 — = 最小値

3. 勤続意識と転勤・転職意識

私立高校教師の勤続意識、転勤意識そして転職意識を教師自身の授業に対する自信、教師に向いている・不向き、学校への満足・不満足から明らかにしたものが表Ⅶ-5である。

教師の自信は「自信をもって授業にのぞめるようになったか」という質問で（「まだそう思えない」を「自信なし」、「自信をもって授業にのぞめる」ものを「自信あり」とした）を用いた。また教師の向き・不向きは「教師という職業が自分に向いていない」（「とても+かなり」感じているを「不向き」、「あまり+まったく」感じていないを「向き」とした）を用いた。さらに、満足・不満足は「現在の学校にどのくらい満足していますか」（「とても+かなり」を「満足」、「あまり+まったく」を「不満足」とした）を用

いて計算した。

まず「定年まで勤める」勤続意識は全体の64.4%、「機会があれば別の学校にかわりたい（21.5%）」「今すぐにも別の学校にかわりたい（2.3%）」転勤意識は23.8%となり、教師を継続希望は全体の9割近いものになる。「教師以外の職業につきたい」転職意識をもった者は全体の1割にすぎないことがわかる。これを性別でみると、勤続意識は男性教師のほうが強く、転勤や転職といった移動性向をもっているのは女性教師である。

さてこうした結果を教師の「自信あり・自信なし」「向き・不向き」「満足・不満足」とクロスすると、以下のことが明らかになった。

① 自信のない教師でも半数以上がその学校で定年まで勤めたいと希望している。

表Ⅶ-5 勤続意識と転勤・転職意識

(%)

| | 全 体 | 性 別 | | 授業に対する | | 教師という職業に | | 現在の学校に | |
|------------------|------|------|------|--------|------|----------|------|--------|------|
| | | 男 性 | 女 性 | 自信あり | 自信なし | 向いている | 不向き | 満 足 | 不満足 |
| 定年まで勤める | 64.4 | 66.2 | 59.7 | 69.2 | 54.8 | 70.2 | 30.2 | 81.9 | 38.6 |
| 機会があれば別の学校にかわりたい | 21.5 | 21.0 | 23.0 | 19.7 | 25.4 | 20.7 | 26.8 | 10.3 | 37.9 |
| 今すぐにも別の学校にかわりたい | 2.3 | 2.1 | 2.8 | 1.2 | 4.4 | 1.8 | 5.4 | 0.1 | 5.6 |
| 教師以外の職業につきたい | 11.8 | 10.7 | 14.5 | 9.9 | 15.4 | 7.3 | 37.6 | 7.7 | 17.9 |

② 教師に向いていないと感じる者のうち4割弱が転職を希望している。

③ 勤務している学校に不満のある者の中でもその4割弱が定年までその学校に勤めることを希望している。また同時に4割以上が転職を希望している。

④ 教師に自信があり、教師に向いていると考え、学校に満足していても転職・転職といった移動性向をもっている者が2～3割はいて、その中でも別の職業へ転職を希望している者が1割に満たない数ではあるが存在することがわかる。

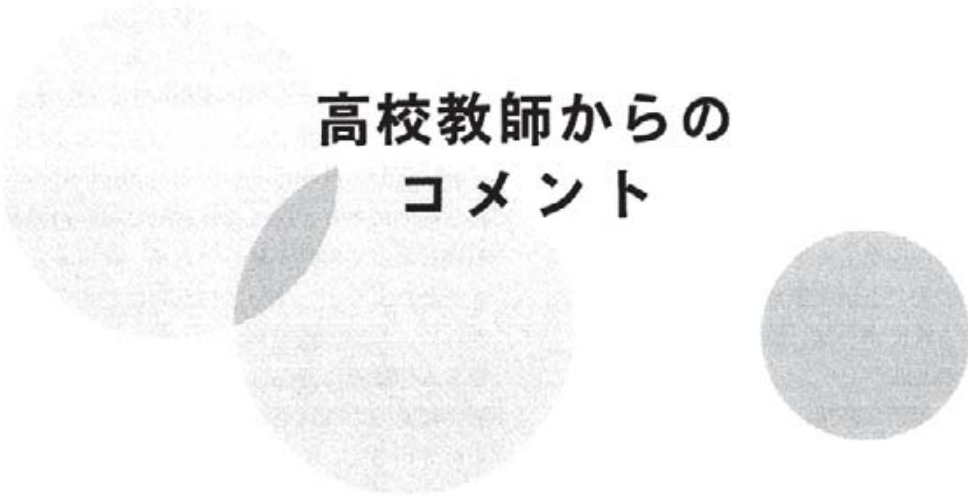
さらに、英語・国語・数学・社会・理科の担当教科別（表Ⅶ－6）にみると、教科によってばらつきがあるが、2つの点が特徴的であった。まず、数学の教師に定年まで勤めることを希望する者が多く、国語の教師に少ない。反対に教師以外の職業に転職を希望する者は国語教師に多く、数学の教師にきわめて少ないことがあげられる。

以上の結果から問題とされるのは、「向き

・不向き」といった教師の適性と、勤めている学校への「満足・不満足」が転職・転職といった移動性向を規定し、私立高校教師としての「役割」を放棄する方向へ働いている点である。開放された労働市場であれば、転職や同業種への転職（転勤）も容易であるが、一般に教師の転職は社会的にも否定的にみられる傾向にあり、特に男性教師には生計維持の問題などで移動が難しいため、何とか定年まで勤めようとしているのが現状であろう。さらに、教師の職業能力が一般に受け入れ先である他業種に評価されない現状もある（教師の職業能力は社会における基礎学力に限定されている）。こうした閉鎖性の強い労働市場で働く高校教師は移動性向を意識の中に内在しながらも、それを抑圧して定年まで勤めなければならない。最近では教師のストレスへの関心が高まっているが、職業としての教師はきわめて厳しい状況にあり、その「役割の実現」は多くの問題を含みつつ行われているのであろう。

表Ⅶ－6 勤続意識 × 担当教科（5教科）

| | (%) | | | | |
|------------------|------|------|------|------|------|
| | 英 語 | 国 語 | 数 学 | 社 会 | 理 科 |
| 定年まで勤める | 62.9 | 58.5 | 74.2 | 67.5 | 62.2 |
| 機会があれば別の学校にかわりたい | 23.0 | 22.5 | 19.1 | 20.2 | 20.9 |
| 今すぐにも別の学校にかわりたい | 1.3 | 2.8 | 2.1 | 3.1 | 3.5 |
| 教師以外の職業につきたい | 12.8 | 16.2 | 4.6 | 9.2 | 13.4 |



高校教師からの コメント

公私の違いに注目

宮沢良美

現在、東京では私立学校志向が高まっているが、今回の調査の結果をみると、私立に勤めていらっしゃる先生方の満足度が高いことがわかる。

生徒が自らその学校を選び、その中から選ばれた生徒を教えているという充実感が高いからだろうか。

私立高校の場合には、各校の校風を軸に、共学か・別学か、大学・短大の附属かどうかなどの要素も大きく関わり、生徒たちはかなりその学校のことを調べてから受験する。それに対し公立の場合には、合格できるかどうかというレベルを基準に家から近いところを選ぶ傾向にある。1回も実際にその高校を見ないで受験に臨む生徒も多い。したがって、私立学校のほうが教師も生徒もその学校に対する愛着心が強いのだろう。これからは公私に関わらず実際に学校見学や説明会に行き、生徒に選んでほしいものである。そのためには公立高校も資料の提示が必要であろう。

また、女性教師に関しては、男性教師に対

して勤続年数が短いという結果がでている。公立学校の場合は、一生の勤めとして考えている女性教師が多い。これは公立の場合には出産に対しても妊娠・出産休暇、育児休業などの制度が確立されているが、私立の場合には妊娠した際の勤務条件がきつからであろうか。それとも教師以外の職業の人と結婚している人が多く、転勤その他の問題があるからだろうか。

最後に教師の悩みとして、雑用の多さ、研修の機会の少なさがあげられていたが、これは公私ともに共通することである。次の世代を担う生徒を預かっているのだから我々の研修は重要だが、日常の仕事、特に生活指導面に時間が費やされると研修の時間が一番カットされてしまいがちである。あまり私立の先生方と研修会でお会いする機会がないので、合同の研修会があり、いろいろとお互いの情報交換の場ができればいいと思う。

(東京都立松が谷高校教諭)

学校満足度と生徒への愛着

畠山 滋

今回のデータをみて印象深いのは、私立校教師の満足度の高さである。

公立校教師と比較して、私立校教師の最大の特徴は、いったんその高校に就職すると、相当長い期間（場合によっては定年まで）その高校に勤務し続けることであろう。その間に職場に適応し、その高校に満足し、愛着心をもつようになるのは、当然ともいえよう。勤務校が進学校であったり、出身校であれば、なおさらである。

筆者（畠山）の勤務する県では、最近5～10年で異動するケースが増え、年配の教師を除けば、異動を前提として勤務するのがふつうである。勤務校に愛着がわく頃には転勤、ということも起こりうる。私立校教師と大きく異なる点といえよう。

しかし、勤務校への愛着や満足が、そのまま当面相手をしている生徒への愛着・満足というわけではあるまい。

筆者は、いわゆる“困難校”に勤務した経験をもつ。そこでは、卒業までに4人に1人に近い割合で退学していく。それだけに、HR担任として卒業生を送り出すと、生徒たちに強い愛着や満足感を感じずにはいられない。

満足感や愛着度を、このようにそのとき指導している生徒に関するものに焦点をしばれば、私立校と公立校の差は、今回の調査とは異なる様相をみせるかもしれない。

次に、マンネリズムの点から、公立校と私立校の教師について考えてみたい。公立校においても、1学年上の先生たちがやっていることをみれば、「来年は自分もあんな感じか」と思い、多少活力が減ずることはある。しかし、ある程度勤務年数を重ねれば、「来

年はこの学校にいないかもしれない」という思いが出てきて、緊張感を維持することができる。こういう点、10年先までも見通せる私立校教師はどのようなのであろうか。

調査結果に、私立校では、異動の少ない私立校では閉鎖性が高まり、悩みや不安の原因となることがある、との指摘があった。公立校ならば、毎年異動の希望を出し続ければ、ストレスを減ずることもできよう。ここらあたりは、異動の多い公立校のメリットかもしれない。

教師が勤務校に満足度が高いということが、生徒にとってよいことかどうかは別問題であろう。そして、いま面と向かっている生徒に対する満足度や愛着ならば、調査のタイミングや進学率に、結果は相当左右されよう。

今回の調査で第2に印象に残ったのは、私立校の大学進学率の高さである。これは、生徒急減期に備え、私立校が質の高い生徒（成績のよい生徒）を確保するため、早くから様々な改革を行ってきた結果でもあろう。また、私立校教師の満足度の高さの背景にも、この進学率の高さがあるだろう。公立校は、一部を除き、改革ではかなり遅れをとっている。しかし（確かに、成績のよい生徒を集めれば、教師の仕事は楽になるが）、公立校は基本的に税金で運営されている。だとすれば、高い授業料を払って私立校に進学できない生徒たち、あるいは高い月謝を払って塾で私立校に合格する学力をつけさせてもらえなかった生徒たち、そんな彼らを受け入れてこそ、公立校は社会的な存在価値をもつのではないだろうか。

（千葉県立佐倉高校教諭）

教師生活を送るうちに、何校かの教育現場をまわった。その中には新設校もあれば、古い伝統校もあり、いろいろなタイプの生徒との出会いを経験することができた。赴任先で同じ高校生とはいえ、こうも勉強や部活動に対する姿勢が違うものかとえらく思い知らされることもしばしばであった。同じことは、教師のライフスタイルの違いにも言えそうである。私の場合は、職場として全日制のみであるが、それでも定時制の勤務と見まがうように、生徒指導に追われて連日遅くまで学校に居残るような時代もあった。

教師としてかけ出しの頃、先輩教師から、「若いうちは、教師としての苦労は買ってでもしなさい」「1時間の授業に対して教材研究にその3倍ぐらいはかけなさい」「生徒と一緒に汗水流し、体を動かせる頃は貴重な時代だよ」などと、いろいろアドバイスをいただいたものである。その当時は、言葉の真の意味がまだピンとこずにいたことも多かったが、今ふり返ってみると、教師としての有り様の琴線にふれるような言葉ではなかったかと、反芻させられる次第である。

教師として成長していく上で、何が糧になるのかいまだにその核心はつかみきれないが、ただ一つ言えそうなことは、いろいろなタイプの生徒や教師と出会うことによって、知ってか知らずか自己を磨くきっかけをその都度与えてくれたということであろう。生徒の中には、必ずしも教師に素直で、上品な生徒ばかりではない。時には、世話のやける生徒、教師に反抗的な生徒、いじめに関係した生徒もいる。そうした行為を行う生徒は、表面に

出てこない心底にある彼らの気持ちを理解しようとしないう限り、教師たる自己にもなかなか生徒一人一人の実像が見えてこないものである。いやおうもなく、これまで生きてきた自己の生活経験の狭隘さ、そして教師としての未熟さを思い知らされる羽目になる。

こうしてみると、長い教師生活を特定の学校や生徒だけとの関わりの中で過ごす生き方に対して、公立高校の教師の場合は、変化と多様性を求めて教師生活を生きられる魅力があると言えるのではないだろうか。たしかに、勤務校がいろいろ変わるという点では、いうならば特定の学校を舞台に自己の納得いくまで教育実践を積み上げ、ある意味での“完成”をそこに求めるスタイルとはかなり違ったものになることは否めない。

その意味では、公立高校の教師は、私立高校の教師ほどには愛校心というような特殊な心情を勤務校に重ね合わせて振る舞うことは少ないかもしれない。しかし、どんな環境の高校であれ、またどんな境遇に置かれた生徒であれ、教育を必要とし、それを求める限り本来の教師としての姿勢は変わりようのないものである。やや建て前にすぎるように受け取られるかもしれないが、“公立”高校の教師のよって立つ教師としての基盤も、そうした幅の広さ、柔軟性ととも自己の教職に対する一貫した気持ちといったものに見いだせるのではないかと思うのである。“一期一会”の精神こそ、公立高校の教師の真骨頂ではないかと感じられるこの頃でもある。

(神奈川県立湘南高校教諭)

公立高校に勤めて

三枝 恵子

公立高校の特徴は、複数の高校を体験でき、その体験を教育活動に生かしていけるところではないかと思う。

私が10年前初めて勤務した学校は、いわゆる「生徒指導の困難な学校」であった。新任教師として希望と多少の緊張感を抱いて面接に学校を訪れたとき、「本当にこの学校でよいのか」と強く確認された。その理由は4月になってすぐ理解できた。日々、生徒指導に追われ、授業はいつも導入部分だけで終わってしまい、校舎内外の見回り、バイクの指導、夜の家庭訪問と時間が流れるように過ぎ、8時・9時に帰るのは早いほうで深夜に及ぶことも少なくなかった。帰宅してからは教材研究や成績処理をし、毎日が忙しいという思いより「生徒と夢中で過ごしていた」という感が強かった。

職員構成は20代、40代後半、50代の人が多く、毎年4月には新任教員を7～8人迎えていた。2～3年すると仕事の中心的存在になってしまう。皆、心のどこかでいわゆる「進学校」の先生をうらやましく思い「早くこの学校から転出したい」と願っている。そうした思いは自己嫌悪となって悩みはするが、転動が確実となると祝福(?)の言葉を背中に浴びながら校門を後にするのだった。

私もそうした生活を数年して、現在のいわゆる「伝統校」と考えられている本校に移ってきた。ようやく卒業生を送り出しこの経験を生かしもう一度担任をと考えていた時期でもあり、生徒からも「来年も先生の授業がいいな」など言ってもらえるようになってきたところだったので転出には複雑の思いがあっ

た。

前任校と大きく異なるのは職員構成であった。10年以上勤務するのは当たり前、20年以上の人も、さらに本校を卒業して新任として勤務しそのまま退職まで勤められた人もおり、転出するときは涙とともに長い年月を感謝をもって振り返るのである。生徒の中にも祖母・父母と3代続いて本校で学んでいる者も少なくない。校歌・制服・校則・施設設備などに長い伝統と強い愛着がみられ、新しい決定より前例を重んじ変化を好まず古き良き時代を今に残している。そして、教師自身は熱心に教材研究に励み授業に自信と誇りをもち、生徒たちの学習と自主的な活動を支えている。

しかし、私にはどこかもの寂しい日々である。前任校では「伝統」「愛校心」という言葉は胸に響かなかったが、生徒と一緒に悩み苦しむ喜び、職員間に連帯感と思いやりがあった。また、新しい方向へ変化させていこうとするエネルギーに満ちていた。

最近の公立高校では1校に余り長くいることは少なくなった。私はわずか10年間に2校経験し、どちらの学校にも学ぶべきところは多い。多様な生徒を迎える公立高校の教師にとって複数での高校での体験は教師自身の人間的豊かさと幅を広げ、生徒理解に非常に役立つ思いがある。そして、今私は再び前任校のような学校に勤務し、今までの経験を生かし新しい思いで生徒と接し、その中でまた新しい自分と出会えることを願っている。実現可能かどうかは別として、そうした願いをもてるのも公立高校のよさなのかもしれない。

(埼玉県立小川高校教諭)

私立高校と公立高校の差異

尾澤弘恒

私立高校の教員の置かれている状況をみるのに、まず私立高校と公立高校との差異を概観しておきたい。

東京都内には国公立校224校に対して、244校の私立校が存在する。すなわち過半数が私立であり、生徒数では全高校生の52.1%が私立高校生で、私立が優位になっている。これはおそらく東京都特有の現象であろう。

学校形態としては、公立校が一応共学であるのに対し、私立校では男子校が71校、女子校が112校、男女校54校（あえて共学と言わないのは、男子部、女子部と分けて、授業は別学のところがある）、在籍生徒のいない学7校と異なった形態をしている。それぞれが建学の教育をもち、それを拠り所として特色ある教育をしている。多種多様な学校が存在する以上、そこに勤務する教員の意識も相当な多様性があることは否めない。

日本の教育がかつては官学優位で進められてきた中で、少数の私学が独自の理想を掲げて存在していた。戦後世情の安定とともに教育に対する要求が高まり、高校以上の上級学校への進学率が上昇し続け、公立校の収容力不足と教育への情熱をもった設立者の出現によって、私立校が増加し巨大化していった。やがて公立校は学校制度の改革によって、必ずしも自分の希望校への入学ができないことになり、私立志向は加速され、特色を打ち出す私立校へ雪崩を打って志願する傾向となった。同時に私立校には上級学校の大学、短大をもつものがあり、そこへ優先入学ができるという特典にも目を向けられだした。このようにして一部の高校を除いては、公立校の下につく格好であった私立校が伸長して公立校に並ぶか、追い抜いていった。

さて、そこに勤務する教員もいろいろな色分けができる。かつては生徒も待遇もよい公立校の教員志望が多く、折りあらば公立への

転出を考える者も少なくなかった。したがって私立校の教員は理事者や校長の関係者、大学教授の依頼で行った者、特別採用の者でなければ、公立校の採用待機組といったところであった。しかし前述のように生徒の変質とともに待遇面でも公立と遜色がなくなり、最初から私立校への就職を希望する者が増加してきている。

私立高校教員の特色の一つは転動のないことである。公立校では自分の勤務校を選択できない反面、適当な時期に気分転換に転動することができる。また、同一校に長く勤務することも許されない。しかしこれでは学校への愛着が育まれることはない。仕事をほどほどにするか、出世を目指すか、あるいは個人的な趣味に打ち込む教師がふえてくる。一方、私立校の転動は非常に例外的である。したがって、校内での自己の立場を認識し、共同体としての職場になじむように努め、その中で行動するすべを身につけていく。そして同一校への長年の勤続とともに学校への愛着も芽生え、学校の発展に参加している意識が高揚してくる。これがエネルギーとなり一層学校発展のために尽くそうとし、教員としての満足感をも得られるので、精神的にも安定して仕事に打ち込める。

私立高校教員のもう一つの特色に卒業生の存在がある。公立では母校への就職は希望してもほとんど不可能だが、多くの私立では学校に卒業生を迎え入れている。母校に戻るくらいの卒業生であるから学校への愛着心は強く、学校発展の原動力として欠かせない存在である。

最近の私立校の多くは進学に力を入れる傾向が強まり、教員の高学歴化（大学院卒）と、有名大学出身者採用の傾向があるようだ。公立私立、私立同士の競争が展開される中で、進学実績はどうしても教育対象の生徒の獲得

に欠かせないからである。

教育に対する情熱と子どもに対する愛情は公立であろうと私立であろうと変わるはずがない。しかし私立高校の教員は愛校精神なしでは動まらない。私立高校の教員が愛校精神をもつとき、現在の人事制度の中では希望校に定着できない公立高校の教員と比べて、は

るかに強い学校発展の力を発揮する。とはいえ生徒減という非常事態が迫ってきている中では、別の意味で様々な努力が私立高校の教員には要求されており、日々努めなければならないことも多い。

(桜美林高校教諭)

「ある先生からの手紙」

— 国際化について考える —

本レポートのためのアンケート調査を行っていたとき、私立高校で講師をしている在日外国人の先生からお手紙をいただいた。自分たちは専任の教師になりにくい。まして管理職など望むべくもないが、この調査はそうした状況を理解したうえでやっているのかという内容だった。

◆
教員の採用などの書類を見ていると、「日本国籍に限る」等の項目を眼にすることが多い。日本だと、多くの人が日本国籍をもっているのに、こうした項目に関心を払うことが少ない。しかし、国籍の制限はそうした採用から不動産の取得、銀行の取り引き等の日常生活全般に及んでいる。

◆
例えば「〇〇県民は教員になれない」等の規制があれば、抗議の行動が繰り広げられようし、社会問題化して、そうした不条理な規制は撤廃されよう。しかし、指紋押捺の問題についても、知識として理解してはいるが、我が身に置き換え感覚をもって考えた人は少なかったように思う。

◆
このところ、海外に進出している日本人が多い。そして、家族連れだと欧米では現地校に子どもを通わせる形になる。その国の言語のまったくわからない日本からの子どもなのに、現地の先生はこちらが拍子抜けするぐらいに、すぐに子どもを受け入れてくれる。しかも、あとで調べてみると、日本についての本を読んだり、「オハヨウ」や「コンニチハ」を覚えたりして、その先生なりに努力しているのがわかる。つまり、どこの社会の子も受

け入れるのが学校の使命という感覚をもって教師たちは実践をしている。

◆
ロス为例にすれば、1つの学校の中に、メキシコや韓国、中国の子どもがいるのが当たり前で、アメリカの子—というのも難しい—が、少数派の場合も珍しくない。ヨーロッパではもともと国境が接しているうえに、ECの統合が進み、多民族社会の傾向が強まっている。フランクフルトの学校を訪ねたとき、100人前後の生徒の国籍は26にも及んでいた。そうになると、互いが異なる存在だが同じ仲間という気持ちをもてる。

◆
スウェーデンでは3年住んでいると、選挙権や被選挙権を得られるという。実際に、ストックホルムに住む友人は選挙に参加していた。もちろん、社会保障や就労等に国籍による制限は少ない。国籍の枠を外し、市民が集まって社会をつくるという感じである。

◆
教育界では、「国際化」の言葉が流布している。しかし、言葉だけが一人歩きしている印象を受ける。外国語を身につけるのが国際化ではない。互いの違いを認め、そして互いを尊重する。それが国際化の第一歩であろう。日本の場合、他の文化を認めるのが苦手で、他を排除しみんなで同一行動をとりがちになる。

◆
学級の中でも体が不自由、髪の毛の色が異なる、言葉になまりがあるなどがいじめの対象になる。少しでもみんなと違うと排除する。そうした態度を取り除くところから国際化が始まる。在日外国人の先生の手紙を契機として、国際化の問題を考えてみた。

●おわりに

私学ブームといわれる中で、私立高校の先生たちの実態に少しでも迫ろうとしたのがこの報告書である。

私学の魅力は、建学の精神や校風、あるいはエスカレーター式進学や中高一貫教育、そして生徒の資質のよさによって語られることが多い。

しかし、実際の私学の教育の内容や水準は、その中にいる教師や教師集団の特質によって左右されることはいうまでもない。

私立高校の教師は公立高校の教師と何が違うのか。教員構成（年齢、性別等）、採用のされ方、一日の生活時間、授業のやり方、生徒との接し方、生活指導、同僚関係、管理職との関係、役職、悩みや不安など、具体的な日々の行動や意識について尋ねた。

3年前に実施した首都圏の高校教師調査のデータとの比較の中で、公私の先生たちの意識や行動の違いを明らかにしていった。

そして、今回の私立高校教師と公立高校教師を比較したデータからは、私立高校の先生たちは、今の私立ブームの中で比較的学力の高い生徒が集まった学校で、生活指導にエネルギーを費やすこともなく、授業もやりやすく、授業に専念し、職場への満足度も高くなっていることが明らかとなった。

また、私立では同一校へ長く勤めることが、愛校心を高め、勤労意欲を高くしていることも示された。

同時に、公立も私立も教師たちが共通に抱えている問題や悩みもある。「雑用が多すぎる」「研修の機会が少ない」等、公私とも、教師の忙しさが悩みのトップにきている。

また、大学進学率の低い高校では、公私を問わず「生徒の学力レベルが低く教えがいが少ない」「自信をもって生徒の進路指導ができない」「生徒の考えや行動についていけな

い」など、生徒との葛藤に頭を痛めている教師の姿が浮かび上がってきている。

幼、小、中、高、大を問わず、教師の生きがいはなんだろうかと思うことがある。

生徒は一人一人個性がある。新たな生徒が毎年入ってきて、新たな出会い・体験が待ち受けている。そのような生徒との出会い、そして生徒の成長をみる喜びが教師に共通の生きがいであることは確かであろう。教師という仕事は、未知との遭遇に充ちている。

しかし同時に、何年か精魂をこめて教育してきた生徒が卒業したと思ったら、すぐ新入生が入学してきて、また一から教育のやり直しと感ずることがないわけではない。それはあたかも、左側にある石を右側へ運び終わったと思ったら、また新たな石が、左側に置かれている状態に似ている。左から右へ石を動かす仕事に飽きてくるように、長年教師をしていると、教育という仕事に情熱を失いそうになるときがある。

教師という仕事が、毎年同じことの繰り返しではなく、毎年、新たな発見の場になることが必要であろう。そのためには、教師が生徒以外にも生きがいを見いだすことができればいい。教師の生きがいが生徒の成長であることが第一であるにしても、それ以外に、自分の努力が、社会的意味をもちうるという実感もほしい。

公立高校の教師は、同一校に長く勤務することはない。何年かで他の学校へ異動していく。勤務年数が短いと、勤務校への愛着をあたためる時間がない。勤務校をよくする様々な努力をしたり、学校の名誉のために進路実績をあげたり、クラブ、生活指導に打ち込もうという情熱をもちにくい条件に囲まれている。その条件の中に安住すると、ほどほどの指導や個人的業績を求めることになる。

反面、異動が多いということは、毎年教員のメンバーも新しくなるということであり、いろいろの学校を経験した教師の創意によって活気ある高校が生まれる可能性も大きい。

一方、私立高校の教師は、転勤は稀であり、同一校に長年勤務し、学校への同一視、愛着は強い。勤務校が進学校であったり、母校であったり、特色のあるスクールカラーの学校であれば、なおさら誇りや愛着を感じるであろう。

しかし、異動がないことが短所になることがないわけではない。ポス的存在の古い教師がいて、権力をふりまわしたり、人間関係が

こじれたりした場合、異動もできない私立校は悲惨なことになる。

このように、私立校、公立校にはそれぞれ特色がある。それぞれの長所をとり、短所を切り捨てるというわけにはいかないであろうが、その違いを客観的にみつめ、お互いのよき点は取り入れることが必要であろう。

最近はじめた公立高校の様々な制度変革も、私立高校の制度や私立高校教師の意識から学ぶべき点は多々あるように思われる。

また、よく論議される公立と私立の役割分担について考える資料になることも願っている。

高校教師の生徒観とライフスタイル

静岡大学教授 深谷 昌志
上智大学教授 武内 清

〈調査のお願い〉

- このアンケートは、高校の先生方が、日頃どのように生徒に接し、授業をなさり、またどのようなライフスタイルをもっていらっしゃるかをおたずねするものです。
- ここで得られたデータは、今後の高校教育のあり方を考える貴重な資料とさせていただきます。
全体のデータとその分析を調査報告レポート『モノグラフ・高校生'93』vol.38（福武書店教育研究所刊）に掲載します。
- 調査対象は、各都道府県の教員名簿よりランダムに抽出させていただきました。
- ご多用中大変恐縮ですが、ぜひご協力ください。ご回答いただいたアンケートは、同封の封筒で無記名にてご返送（9月30日まで）いただければ幸いです。
- なお、内容についてのお問い合わせは、下記にお願いいたします。

静岡大学教育学部 深谷 昌志

住所 〒422 静岡市大谷836 TEL 054-237-1111（代）内線4981

※ご回答いただいた方で、報告書をご入用の方は、官製ハガキにて、住所、氏名、勤務先をご記入のうえ、上記のところへお申し込みください。平成5年7月頃にお送りいたします。

〈回答のしかた〉特にことわりのない場合は、あてはまる数字に1つだけ○をつけてください。

I まず、あなたのふだんの生活についておたずねします。

① あなたの1日の生活についておたずねします。勤務のある日のほぼ平均的な日を想定してお答えください。

① 学校には、授業の何分くらい前に着きますか。

1. 始業の5分くらい前 2. 10～15分前 3. 20～30分前
4. 40～50分前 5. 50分以上前

② 平日の退勤時刻（学校を出る時刻）は何時頃ですか。

1. 4時以前 2. 4時半頃 3. 5時頃 4. 5時半頃
5. 6時頃 6. 7時頃 7. 8時頃 8. 9時以降

③ 帰宅後、新聞を読んだり読書をしたりする時間は、平均してどのくらいですか。

1. ほとんどしない 2. 30分くらい 3. 1時間くらい
4. 2時間くらい 5. 3時間以上

④ 帰宅後、テレビを見る時間は、平均してどのくらいですか。

1. ほとんど見ない 2. 30分くらい 3. 1時間くらい
4. 2時間くらい 5. 3時間以上

⑤ 帰宅後、教材研究・事務処理などの職務に関する仕事をする時間は、平均してどのくらいですか。

1. ほとんどしない 2. 30分くらい 3. 1時間くらい
4. 2時間くらい 5. 3時間以上

II それでは、現在の学校においでになった頃のことをおたずねします。

② まず、あなたが現在の学校に勤務するようになったきっかけについておたずねします。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 校長にさそわれた
2. 先輩・同僚にさそわれた
3. 理事長にさそわれた
4. 大学の就職係の人に紹介された
5. 大学の恩師に紹介された
6. 高校の恩師に紹介された
7. 非常勤講師をしていたから
8. 募集の案内を見て自分で応募した
9. 自分の母校だから

③ あなたは、現在の学校のどこに魅力を感じましたか。

- | | とても
そう | かなり
そう | 少し
そう | そうで
ない |
|---------------------------|-----------|-----------|----------|-----------|
| ① 建学の精神に共鳴した…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ② 自分の力が十分に出せそうだ…… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③ 給与などの待遇がよかった………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④ 定年の年齢が高かった…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤ 研修の時間が十分とれそうだ…… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑥ 生徒の質が高そうだ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑦ ネームバリューがあり評判が高い学校だ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑧ 生徒指導にあまり気をつかわなくてよい…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑨ 通勤が便利になる…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑩ 教育設備が整っている…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |

Ⅲ それでは、授業の中心をおたずねします。

④ あなたはふだん、授業中に、次のようなことをどれくらいなさっていますか。

| | いつも そうして いる | ときどき そうして いる | ほとんど そうして いない |
|------------------------------------|-------------------|--------------------|---------------------|
| ① 教科書にそって授業をする…………… | 1 | 2 | 3 |
| ② ノートのとり方を指導する…………… | 1 | 2 | 3 |
| ③ 最近、話題になっているニュースを生徒たちに 話す…………… | 1 | 2 | 3 |
| ④ 生徒に人気のあるマンガや音楽について話題に する…………… | 1 | 2 | 3 |
| ⑤ 自分の子どもの頃のことなどを生徒たちに話す… | 1 | 2 | 3 |
| ⑥ 自分の欠点や失敗談を話す…………… | 1 | 2 | 3 |

⑤ あなたが自信をもって授業にのぞめるようになったのは、教師になって何年目からですか。

1. 1年やってみて 2. 2～3年 3. 4～5年
4. 6～9年 5. 10年以上 6. まだそう思えない

⑥ あなたは、通勤のときと授業をするときで服装を変えていますか。

| 変えていない | 授業では カジュアルウエアに変える | 授業では (セミ)フォーマルなものに変える |
|--------|----------------------|--------------------------|
| 1 | 2 | 3 |

⑦ あなたは今年度、クラス担任をなさっていますか。

1. 1年生の担任 2. 2年生の担任
3. 3年生の担任 4. 担任をしていない

SQ (クラス担任をしている方へ) 担任しているクラスの生徒について、どの程度知っていますか。①～⑩のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

- | | 3分の2以上の
生徒について
知っている | 半分くらいの
生徒について
知っている | 3分の1くらいの
生徒について
知っている | ほとんどの
生徒について
知らない |
|---------------------|----------------------------|---------------------------|-----------------------------|-------------------------|
| ① 出身中学校…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ② 通学方法…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③ 成績…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④ 授業態度…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤ 部活動の状況…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑥ 趣味…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑦ 通塾(予備校を含む)状況…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑧ アルバイトの状況…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑨ 友人や友人グループ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑩ 家族構成…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |

⑧ あなたはふだん、生徒との間で次のようなことがありますか。

- | | よく
ある | ときどき
ある | ほとん
ど
ない |
|---------------------------|----------|------------|----------------|
| ① 授業中、よくできた生徒をほめる…………… | 1 | 2 | 3 |
| ② 授業中、態度の悪い生徒を叱る…………… | 1 | 2 | 3 |
| ③ 教科の内容について生徒から質問される…………… | 1 | 2 | 3 |
| ④ 生徒から個人的な相談を受ける…………… | 1 | 2 | 3 |
| ⑤ 教えている生徒からあいさつされる…………… | 1 | 2 | 3 |
| ⑥ 自分のほうから生徒に声をかける…………… | 1 | 2 | 3 |
| ⑦ 生徒と廊下や職員室で(立ち)話をする…………… | 1 | 2 | 3 |
| ⑧ 生徒と一緒に掃除をする…………… | 1 | 2 | 3 |

● 資料1 調査票見本

⑨ あなたには、仲のよい同僚の先生がいますか。

1. はい 2. いいえ



SQ (はいと答えた方へ) その先生(多数いる場合は特に親しい先生)についてあてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 同性 2. 同年齢・同世代 3. 同一教科
4. 同一分掌 5. 同一学年担当 6. 同一出身大学
7. 趣味が同じ 8. 独身

⑩ あなたは、同僚の先生と、次のようなことをすることがありますか。

| | よく ある | ときどき ある | ほとんど ない |
|-------------------------------------|----------|------------|------------|
| ① スポーツをする..... | 1 | 2 | 3 |
| ② 囲碁、将棋、マージャンをする..... | 1 | 2 | 3 |
| ③ 一緒に食事に行く..... | 1 | 2 | 3 |
| ④ お酒を飲みに行く..... | 1 | 2 | 3 |
| ⑤ 教科の内容や教育技術について話す..... | 1 | 2 | 3 |
| ⑥ よくできる生徒のことについて話す..... | 1 | 2 | 3 |
| ⑦ 問題のある生徒のことについて話す..... | 1 | 2 | 3 |
| ⑧ 部活動やその指導のことについて話す..... | 1 | 2 | 3 |
| ⑨ 教師間の人間関係やうわさなどについて話す..... | 1 | 2 | 3 |
| ⑩ 学校や教育のあり方について話す..... | 1 | 2 | 3 |
| ⑪ 個人的なこと(結婚、家庭、子ども、住宅など)について話す..... | 1 | 2 | 3 |

⑪ あなたは学校内などで、次のようなことをどのくらいやっていますか。

| | よく する | かなり する | 少し する | しない |
|------------------------|----------|-----------|----------|-----|
| ① 手作りの資料を使った授業をする..... | 1 | 2 | 3 | 4 |

- | | よく
する | かなり
する | 少し
する | しない |
|------------------------------------|----------|-----------|----------|-----|
| ② 小テストをする…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③ 宿題を出す…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④ 講義ノートを作る…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤ 担当教科の専門書を読む…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑥ 雑誌や参考書の原稿を書く…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑦ 校内を巡視する…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑧ バイク・オートバイの乗車につ いて指導・注意する…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑨ 欠席した生徒に電話する…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑩ 問題を起こした生徒の家庭を訪 問する…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |

12 それでは、現在の学校について、あなたは次のような不安をおもちですか。

- | | とても
ある | かなり
ある | 少し
ある | ぜんぜん
ない |
|-----------------------------|-----------|-----------|----------|------------|
| ① 人間関係に気をつかう…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ② 異動が自由にできない…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③ 理事長や校長とうまくいって いない…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④ 先輩の教師とうまくいって いない…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤ 校風になじまない…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑥ 身分が十分に保障されていない… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑦ 同僚と給与の格差をつけられて いる…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑧ 努力しても報いられない…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑨ 補習授業などで勤務時間が長い… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑩ 学閥が幅をきかせている…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |

IV それでは、教師のあり方についておたずねします。

13 あなたからみて、あなたの高校の教師として、次のようなことはどれくらい必要だと思いますか。

| | 必要でない | 少し必要 | かなり必要 | とても必要 |
|--------------------------------|-------|------|-------|-------|
| ① 専門性の高い授業をする…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ② 大学入試に役立つ授業をする…… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③ 生徒からの進学相談に対し適切な指導ができる…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④ ホームルームの運営がうまい…… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤ 学級通信をこまめに出す…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑥ 部活動を熱心に指導する…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑦ 昼休みなど気軽に生徒と雑談する…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑧ 生徒に人気のあるテレビを見たりマンガに目を通す…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑨ 一声で生徒を静かにさせることができる…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑩ 問題を起こした生徒を諭すことができる…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑪ 欠席した生徒の家に電話する…… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑫ 学年全体の調和を考えて行動する…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑬ 校長や教頭の意見を聞く…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑭ 38度の熱があっても無理して学校へ行く…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑮ 雑誌や参考書に執筆する…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |

- 14 いま、あなたは次のような悩みをどのくらい感じていますか。①～⑪のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

| | とても 感じて いる | かなり 感じて いる | あまり 感じて いない | まったく 感じて いない |
|-----------------------------|------------------|------------------|-------------------|--------------------|
| ① 生徒の考えや行動についていけない…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ② 自分の専門的な力量に自信がない…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③ 生徒が騒々しくて授業を中断させられる…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④ 生徒の学力レベルが低く教えがいない…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤ 自信をもって生徒の進路指導ができない…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑥ 保護者と連絡をとったりするのが苦痛である…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑦ 部活動の指導が負担になっている…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑧ 校務分掌の仕事がうまくこなせない…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑨ 雑用が多すぎる…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑩ 研修の機会が少ない…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑪ 教師という職業が自分に向いていない…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |

- 15 あなたは、現在の学校にどれくらい満足していますか。

1. とても満足している
2. かなり満足している
3. あまり満足していない
4. まったく満足していない

16 少し立ち入ったことをおたずねしますが、あなたは定年まで現在の学校に勤務するつもりですか。

1. 定年まで勤める
2. 機会があれば別の学校にかわりたい
3. 今すぐにでも別の学校にかわりたい
4. 教師以外の職業につきたい

17 もし、もう一度新卒のときに戻れるとします。そのとき、あなたは勤め先として次のどの学校を選ぶと思いますか。

1. 現在の学校
2. 他の私立高校
3. 他の公立高校
4. その他 ()

V 最後に、あなた自身のことや勤務校についておたずねします。

18 性別

1. 男
2. 女

19 年齢

1. 25歳以下
2. 26～30歳
3. 31～34歳
4. 35～39歳
5. 40～44歳
6. 45～49歳
7. 50～59歳
8. 60歳以上

20 担当教科（複数の場合は、主なもの1つ）

1. 英語
2. 国語
3. 数学
4. 社会
5. 理科
6. 芸術
7. 家庭
8. 体育
9. その他 ()

21 出身高校

1. 母校
2. 母校以外の私立高校
3. 公立高校
4. 国立高校
5. その他 ()

22 出身大学

- | | |
|------------------|------------------------------|
| 1. 教育系大学（国公立） | 2. 教育系大学（私立） |
| 3. 教育系以外の大学（国公立） | 4. 教育系以外の大学（私立） |
| 5. 短期大学 | 6. その他（ ） |

23 出身大学院

- | | |
|------------------|------------------------------|
| 1. 行っていない | 2. 教育系大学院（国公立） |
| 3. 教育系大学院（私立） | 4. 教育系以外の大学院（国公立） |
| 5. 教育系以外の大学院（私立） | 6. その他（ ） |

24 現在の学校は新卒から勤務していますか。

1. はい 2. いいえ（途中から）



S Q （途中から勤務した方だけにおたずねします）その直前はどの学校にいましたか。

- | | |
|--------------|------------------------------|
| 1. 公立高校（全日制） | 2. 他の私立高校（全日制） |
| 3. 他の私立中学校 | 4. 公立の小・中学校 |
| 5. 定時制高校 | 6. その他（ ） |

25 現在の学校は赴任して何年目になりますか。

- | | | | |
|------------|------------|-----------|------------|
| 1. 1～3年目 | 2. 4～6年目 | 3. 7～9年目 | 4. 10～15年目 |
| 5. 16～20年目 | 6. 21～29年目 | 7. 30年目以上 | |

26 現在勤務している学校の所在地はどこですか。

- | | | | |
|------------------------------|---------|--------|--------|
| 1. 東京都 | 2. 神奈川県 | 3. 埼玉県 | 4. 千葉県 |
| 5. その他（ ） | | | |

- 27 あなたの学校は、小学校・中学校を併設していますか。
1. 小・中・高校・大学（短大も含む）がある
 2. 中・高校だけ
 3. 高校・大学だけ
 4. 高校だけ
 5. その他（ ）
- 28 現在勤務している学校の生徒で、4年制大学進学者の割合はどれくらいですか。
1. 30%以下
 2. 30～59%くらい
 3. 60～79%くらい
 4. 80～89%くらい
 5. 90%以上
 6. よくわからない
- 29 あなたの勤務校では、平成4年度のセンター試験の受験者は、3年生のうち、およそどれくらいですか。
1. 1割以下
 2. 2割くらい
 3. 3割くらい
 4. 半数くらい
 5. 7割くらい
 6. ほぼ全員（9割以上）
 7. よくわからない
- 30 あなたが顧問をしている部活動の種類は何ですか。（主なもの1つ）
1. 運動系
 2. 文化系
 3. その他（ ）
 4. 顧問はしていない
- 31 あなたは現在の学校で役職（管理職・主任または部長）についていますか。あてはまる主なもの1つに○をつけてください。（2つ以上兼任している場合は主なほう）
1. 校長・教頭
 2. 教務主任または部長
 3. 総務または庶務
 4. 進路指導
 5. 生活指導
 6. 厚生・保健
 7. 学年
 8. その他の主任・部長
 9. 主任または部長ではない
- 32 あなたは結婚していますか。
1. 未婚
 2. 既婚・子どもなし
 3. 既婚・子どもあり
 4. その他

以上です。ご協力ありがとうございました。

● 資料2 基礎集計表

(性別、年齢別は私立のみ) 単位：サンプル数以外はパーセント

| 質問項目 | 公立 ^{*1} 全体 | 私立全体 | 性別 | | 年齢 | | | | | 別 ^{*4} | | |
|-------------------------|-------------------------|--------------------|-------|------|-------|--------|--------|--------|--------|-----------------|------|--|
| | | | 男性 | 女性 | 30歳以下 | 31~34歳 | 35~39歳 | 40~44歳 | 45~49歳 | 50歳以上 | | |
| サンプル数 | 1,305 | 1,429 | 1,015 | 414 | 280 | 210 | 202 | 215 | 159 | 362 | | |
| 勤務の ある日 の生活 状況 | 1. 始業の5分くらい前 | 10.6 | 3.2 | 4.3 | 1.8 | 5.2 | 2.0 | 3.7 | 3.1 | 3.3 | | |
| | 2. 10~15分前 | 29.4 | 12.2 | 11.8 | 11.8 | 10.0 | 11.9 | 12.1 | 10.7 | 14.7 | | |
| | 3. 20~30分前 | 35.2 | 33.1 | 32.4 | 34.4 | 26.9 | 31.5 | 30.2 | 40.7 | 39.0 | 33.2 | |
| | 4. 40~50分前 | 17.5 | 26.6 | 26.8 | 26.3 | 28.0 | 30.0 | 29.7 | 22.0 | 22.0 | 26.9 | |
| | 5. 50分以上前 ^{*2} | 7.3 | 24.9 | 26.2 | 21.7 | 31.5 | 23.3 | 26.2 | 21.5 | 25.2 | 21.9 | |
| 退勤時刻 | 1. 4時以前 | 15.0 ^{*3} | 2.5 | 1.4 | 1.1 | 2.9 | 2.0 | 2.8 | 1.3 | 4.2 | | |
| | 2. 4時半頃 | 11.1 | 11.1 | 10.5 | 12.8 | 3.6 | 7.1 | 8.9 | 9.8 | 13.2 | 20.6 | |
| | 3. 5時頃 | 17.6 | 17.6 | 17.3 | 18.4 | 8.9 | 12.9 | 18.3 | 20.2 | 18.9 | 24.7 | |
| | 4. 5時半頃 | 27.6 | 19.3 | 18.3 | 21.7 | 14.3 | 19.0 | 12.9 | 25.6 | 20.8 | 22.5 | |
| | 5. 6時頃 | 29.4 | 26.9 | 26.6 | 27.8 | 30.7 | 25.2 | 34.1 | 30.0 | 26.3 | 19.4 | |
| 新聞・読書の 時間 | 6. 7時頃 | 21.5 | 18.1 | 19.6 | 14.3 | 31.1 | 26.2 | 18.8 | 10.2 | 17.6 | 7.8 | |
| | 7. 8時頃 | 5.2 | 3.9 | 3.9 | 3.6 | 9.6 | 5.7 | 3.5 | 0.9 | 1.9 | 0.8 | |
| | 8. 9時以降 | 1.3 | 0.6 | 0.8 | 0.0 | 0.7 | 1.0 | 1.5 | 0.5 | 0.0 | 0.0 | |
| | 1. ほとんどしない | 5.4 | 7.0 | 5.2 | 11.2 | 12.2 | 10.0 | 9.4 | 3.7 | 1.9 | 3.9 | |
| | 2. 30分くらい | 29.0 | 32.7 | 30.2 | 38.8 | 45.1 | 38.8 | 45.0 | 32.6 | 23.3 | 17.0 | |
| テレビを見る 時間 | 3. 1時間くらい | 43.2 | 39.6 | 40.5 | 37.6 | 32.6 | 34.0 | 34.7 | 45.1 | 50.3 | 42.9 | |
| | 4. 2時間くらい | 19.2 | 17.1 | 19.5 | 11.4 | 7.9 | 13.4 | 9.4 | 16.7 | 22.0 | 29.0 | |
| | 5. 3時間以上 | 3.2 | 3.6 | 4.6 | 1.0 | 2.2 | 3.8 | 1.5 | 1.9 | 2.5 | 7.2 | |
| | 1. ほとんど見ない | 13.7 | 13.1 | 10.0 | 20.6 | 16.4 | 14.8 | 16.3 | 13.6 | 12.6 | 7.3 | |
| | 2. 30分くらい | 20.3 | 19.2 | 16.1 | 26.7 | 17.9 | 15.7 | 15.3 | 23.4 | 17.6 | 22.6 | |
| 事務材 処理 | 3. 1時間くらい | 42.4 | 43.2 | 47.5 | 33.0 | 37.8 | 46.6 | 45.6 | 44.3 | 49.0 | 41.3 | |
| | 4. 2時間くらい | 21.0 | 22.5 | 24.2 | 18.2 | 25.0 | 21.0 | 20.8 | 16.8 | 19.5 | 27.1 | |
| | 5. 3時間以上 | 2.6 | 2.0 | 2.2 | 1.5 | 2.9 | 1.9 | 2.0 | 1.9 | 1.3 | 1.7 | |
| | 1. ほとんどしない | 32.7 | 25.4 | 27.6 | 19.9 | 32.9 | 29.0 | 35.6 | 15.8 | 22.0 | 18.9 | |
| | 2. 30分くらい | 19.7 | 17.8 | 16.8 | 20.3 | 15.4 | 18.6 | 12.9 | 21.4 | 23.3 | 17.5 | |
| 研究 | 3. 1時間くらい | 34.4 | 35.9 | 34.9 | 38.5 | 30.0 | 37.1 | 29.2 | 41.4 | 33.4 | 41.9 | |
| | 4. 2時間くらい | 11.4 | 17.3 | 17.4 | 16.9 | 17.1 | 12.4 | 19.3 | 19.1 | 18.2 | 17.5 | |
| | 5. 3時間以上 | 1.8 | 3.6 | 3.3 | 4.4 | 4.6 | 2.9 | 3.0 | 2.3 | 3.1 | 4.2 | |

*1 公立全体のデータはvol.28のもの。ただし無回答・不明票を除外し、有効票のみを母数としている。

*2 前回の調査では「60分以上前」

*3 「5時以前」

*4 年齢不詳が1名

| 質問項目 | 公立全体 | 私立全体 | 性別 | | 年齢 | | | | | 別 | |
|--|---|------|------|------|-------|--------|--------|--------|--------|------|-------|
| | | | 男性 | 女性 | 30歳以下 | 31~34歳 | 35~39歳 | 40~44歳 | 45~49歳 | | 50歳以上 |
| ② 現在の学校に勤務する か の学校に勤務する | | | 13.4 | 14.0 | 11.8 | 18.2 | 14.3 | 8.4 | 10.2 | 13.2 | 13.8 |
| | 1. 校長にさわわれた | 16.5 | 17.2 | 14.7 | 11.1 | 14.3 | 12.9 | 20.0 | 17.0 | 21.8 | |
| | 2. 先輩・同僚にさわられた | 3.4 | 3.7 | 2.4 | 2.5 | 1.4 | 2.0 | 3.7 | 4.4 | 5.2 | |
| | 3. 理事長にさわられた | 11.8 | 11.2 | 13.0 | 12.1 | 11.4 | 7.4 | 14.0 | 9.4 | 13.8 | |
| | 4. 大学の就職係に紹介された | 24.6 | 24.7 | 24.2 | 20.0 | 17.6 | 27.2 | 25.1 | 33.3 | 26.2 | |
| | 5. 大学の恩師に紹介された | 6.7 | 7.6 | 4.6 | 6.4 | 6.2 | 6.9 | 7.4 | 6.9 | 6.6 | |
| | 6. 高校の恩師に紹介された | 14.1 | 14.1 | 14.0 | 13.2 | 15.7 | 21.3 | 13.5 | 15.1 | 9.7 | |
| | 7. 非常勤講師をしていたから | 13.1 | 12.4 | 14.7 | 26.4 | 17.6 | 11.9 | 8.8 | 7.5 | 5.8 | |
| | 8. 募集案内を見て応募した | 9.3 | 8.5 | 11.4 | 7.5 | 10.0 | 12.4 | 7.9 | 7.5 | 10.2 | |
| | 9. 自分の母校だから | 35.9 | 35.5 | 36.9 | 30.7 | 35.3 | 32.0 | 27.1 | 36.7 | 47.8 | |
| ③ (と現在でもその学校に勤務する か の学校に勤務する) | | | 59.1 | 59.8 | 57.5 | 56.2 | 58.9 | 55.6 | 54.4 | 53.9 | 69.2 |
| | 1. 建学の精神に共鳴した | 24.3 | 24.0 | 24.9 | 29.5 | 20.9 | 31.0 | 20.2 | 22.8 | 21.0 | |
| | 2. 自力の力が十分に出せそう | 17.9 | 20.1 | 12.2 | 9.7 | 12.6 | 18.6 | 8.9 | 22.1 | 32.0 | |
| | 3. 給与などの待遇がよかった | 24.6 | 28.1 | 15.6 | 16.9 | 19.8 | 22.9 | 22.9 | 26.5 | 35.3 | |
| | 4. 定年の年齢が高かった | 27.8 | 28.3 | 26.2 | 22.9 | 29.0 | 27.6 | 23.4 | 27.0 | 25.4 | |
| | 5. 研修時間が十分とれそう | 21.4 | 23.2 | 17.0 | 22.4 | 18.8 | 20.4 | 18.1 | 22.4 | 24.4 | |
| | 6. 生徒の質が高そう | 20.8 | 21.8 | 18.1 | 20.2 | 17.8 | 19.2 | 15.7 | 22.4 | 26.3 | |
| | 7. ネームバリューがあり評判が高い | 34.9 | 32.7 | 40.2 | 31.1 | 32.9 | 30.2 | 29.0 | 32.6 | 43.8 | |
| | 8. 生徒指導にあまり気をつかわない | 15.7 | 16.3 | 14.2 | 13.6 | 20.8 | 14.2 | 12.8 | 11.0 | 19.0 | |
| | 9. 通勤が便利になる | 91.2 | 92.5 | 92.1 | 93.8 | 93.4 | 90.5 | 92.6 | 93.4 | 91.0 | 93.3 |
| ④ 授業中 に 授業 の 進め 方 が いい か 悪い か が わからない | | | 67.3 | 71.6 | 78.6 | 69.9 | 74.5 | 66.8 | 68.4 | 79.2 | 80.4 |
| | 1. 教科書にそって授業をする | 89.0 | 89.4 | 89.5 | 86.3 | 91.8 | 90.1 | 90.6 | 88.5 | 89.6 | |
| | 2. ノートのとり方を指導する | 39.9 | 42.3 | 41.6 | 56.2 | 53.9 | 40.6 | 41.2 | 35.7 | 28.5 | |
| | 3. 最近のニュースを話す | 74.7 | 75.6 | 75.3 | 80.9 | 76.4 | 73.7 | 76.8 | 69.9 | 73.9 | |
| | 4. 人気のマンガや音楽を話題にする | 76.2 | 79.2 | 78.0 | 81.2 | 84.2 | 79.2 | 78.3 | 79.2 | 75.1 | |
| | 5. 自分の子どもの頃のことを話す | 6.1 | 6.4 | 6.9 | 9.7 | 6.8 | 5.5 | 3.8 | 6.5 | 5.7 | |
| ⑤ 授業中 に 授業 の 進め 方 が いい か 悪い か が わからない | | | 11.7 | 14.0 | 10.8 | 14.4 | 18.4 | 12.0 | 9.9 | 12.3 | 11.5 |
| | 1. 1年やってみて | 21.7 | 22.9 | 19.0 | 10.4 | 23.7 | 26.0 | 28.2 | 26.0 | 26.1 | |
| | 2. 2~3年 | 8.8 | 11.1 | 11.0 | 2.2 | 13.0 | 17.0 | 15.1 | 10.4 | 11.4 | |
| | 3. 4~5年 | 13.8 | 11.6 | 10.8 | 0.0 | 2.4 | 7.5 | 15.6 | 22.7 | 21.5 | |
| | 4. 6~9年 | 37.9 | 34.9 | 32.7 | 63.3 | 35.7 | 32.0 | 27.4 | 22.1 | 23.8 | |
| | 5. 10年以上 | 82.8 | 88.2 | 87.6 | 90.6 | 90.9 | 91.5 | 86.7 | 85.0 | 85.2 | |
| ⑥ 授業中 に 授業 の 進め 方 が いい か 悪い か が わからない | | | 9.2 | 6.1 | 5.7 | 5.1 | 4.8 | 4.0 | 5.2 | 11.1 | 7.1 |
| | 1. 変えていない | 8.0 | 5.7 | 6.2 | 4.3 | 4.3 | 4.5 | 8.1 | 3.9 | 7.7 | |
| | 2. 授業ではカジュアルウェアに変える 3. 授業では(セミ)フォーマルに変える | | | | | | | | | | |

| 質 問 項 目 | 公 立 全 体 | 私 立 全 体 | 性 別 | | 年 齢 | | | | 別 | | |
|-------------------|--------------------|---------|------|------|-------|--------|--------|--------|-------|--------|-------|
| | | | 男 性 | 女 性 | 30歳以下 | 31~34歳 | 35~39歳 | 40~44歳 | | 45~49歳 | 50歳以上 |
| | | | | | | | | | | | |
| 7 | 1. 1年生の担任 | 14.4 | 21.8 | 23.8 | 27.7 | 25.1 | 25.1 | 19.7 | 21.7 | 14.6 | |
| | 2. 2年生の担任 | 15.4 | 21.0 | 21.8 | 23.4 | 27.1 | 27.7 | 24.9 | 17.2 | 10.9 | |
| | 3. 3年生の担任 | 15.6 | 20.6 | 18.4 | 15.1 | 25.1 | 22.6 | 23.5 | 21.7 | 13.8 | |
| | 4. 担任をしていない | 54.6 | 38.7 | 36.0 | 33.8 | 22.7 | 24.6 | 31.9 | 39.4 | 60.7 | |
| | 1. 出身中学校 | 27.2 | 34.8 | 32.8 | 35.5 | 35.2 | 40.0 | 35.9 | 38.5 | 24.7 | |
| | 2. 通学方法 | 47.3 | 28.0 | 25.7 | 32.6 | 37.9 | 26.7 | 26.9 | 24.7 | 15.4 | |
| | 3. 成績 | 75.8 | 80.4 | 76.4 | 86.6 | 84.0 | 77.5 | 80.7 | 79.2 | 72.0 | |
| | 4. 授業態度 | 81.9 | 77.1 | 74.9 | 82.3 | 77.2 | 74.7 | 77.8 | 75.3 | 73.3 | |
| | 5. 部活動の状況 | 65.0 | 64.1 | 62.2 | 72.2 | 71.0 | 60.9 | 61.4 | 61.5 | 54.0 | |
| | 6. 趣味 | 11.5 | 9.5 | 7.1 | 10.4 | 12.3 | 4.7 | 9.7 | 10.3 | 8.8 | |
| 7. 通塾 (予備校を含む) 状況 | 35.6 | 29.1 | 24.5 | 30.3 | 27.3 | 29.3 | 35.9 | 34.0 | 19.3 | | |
| 8. アルバイトの状況 | 31.2 | 29.5 | 23.6 | 36.8 | 32.9 | 28.6 | 29.6 | 27.8 | 18.3 | | |
| 9. 友人や友人グループ | 37.3 | 32.8 | 25.8 | 46.0 | 40.1 | 14.0 | 33.1 | 24.0 | 19.3 | | |
| 10. 家族構成 | 27.6 | 27.0 | 19.2 | 31.2 | 29.0 | 26.7 | 24.3 | 24.7 | 24.0 | | |
| 8 | 1. 授業中、よくできた生徒をほめる | 90.6 | 91.7 | 90.8 | 92.0 | 94.7 | 90.1 | 91.9 | 92.4 | 90.2 | |
| | 2. 授業中、態度の悪い生徒を叱る | 95.7 | 94.5 | 94.8 | 93.5 | 95.7 | 91.1 | 93.9 | 96.8 | 96.0 | |
| | 3. 教科内容で生徒から質問される | 81.3 | 89.4 | 88.0 | 90.2 | 90.3 | 87.6 | 90.6 | 89.2 | 88.5 | |
| | 4. 生徒から個人的な相談を受ける | 70.2 | 84.2 | 81.2 | 87.3 | 85.1 | 79.1 | 86.9 | 85.9 | 82.4 | |
| | 5. 生徒からあいさつされる | 97.6 | 99.6 | 99.4 | 100.0 | 99.5 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 99.5 | |
| | 6. 自分から生徒に声をかける | 94.3 | 96.3 | 95.3 | 97.1 | 98.1 | 96.5 | 97.7 | 96.8 | 94.0 | |
| | 7. 生徒と廊下や職員室で話をする | 94.4 | 96.3 | 95.3 | 97.9 | 94.7 | 96.6 | 98.6 | 97.5 | 94.2 | |
| | 8. 生徒と一緒に掃除をする | 89.5 | 78.2 | 74.3 | 82.0 | 81.2 | 81.0 | 78.9 | 79.0 | 70.5 | |
| 9 | 1. はい | 92.2 | 96.2 | 96.2 | 97.5 | 92.4 | 97.5 | 96.7 | 96.2 | 96.4 | |
| | 2. いいえ | 7.8 | 3.8 | 3.8 | 2.5 | 7.6 | 2.5 | 3.3 | 3.8 | 3.6 | |
| 9 | 1. 同性 | 69.2 | 76.0 | 74.7 | 83.2 | 80.0 | 79.7 | 74.0 | 72.3 | 68.8 | |
| | 2. 同年齢・同世代 | 65.7 | 69.4 | 72.3 | 82.1 | 72.9 | 72.8 | 69.8 | 61.0 | 59.1 | |
| | 3. 同一教科 | 47.5 | 39.0 | 39.6 | 38.6 | 37.1 | 40.1 | 43.7 | 33.3 | 39.5 | |
| | 4. 同一分掌 | 22.5 | 16.7 | 18.2 | 18.9 | 20.5 | 17.8 | 15.3 | 12.6 | 14.9 | |
| | 5. 同一学年担当 | 35.8 | 27.9 | 27.7 | 34.6 | 31.9 | 30.2 | 26.0 | 23.3 | 21.8 | |
| | 6. 同一出身大学 | 6.3 | 11.3 | 11.8 | 10.7 | 12.0 | 15.3 | 9.3 | 8.8 | 11.3 | |
| | 7. 趣味が同じ | 30.4 | 26.4 | 28.4 | 27.9 | 20.5 | 25.2 | 20.5 | 30.2 | 31.2 | |
| | 8. 独身 | 11.8 | 15.7 | 13.0 | 47.5 | 14.8 | 12.4 | 6.0 | 4.4 | 4.1 | |

| 質問項目 | 公立 全体 | 私立 全体 | 性別 | | 年齢 | | | | | 別 | |
|----------------------------------|-------------------------------|---------------|------|------|-------|--------|--------|--------|--------|------|-------|
| | | | 男 | 女 | 30歳以下 | 31~34歳 | 35~39歳 | 40~44歳 | 45~49歳 | | 50歳以上 |
| 10 同僚の先生とすること（よく +ときときある） | 1. スポーツ | 62.7 | 50.1 | 55.6 | 36.6 | 59.9 | 61.1 | 53.9 | 44.4 | 47.5 | 38.3 |
| | 2. 囲碁、将棋、マージャン | 23.3 | 15.0 | 20.6 | 0.8 | 9.7 | 12.7 | 14.4 | 19.0 | 13.4 | 19.2 |
| | 3. 食事に行く | 78.0 | 84.2 | 82.5 | 88.6 | 91.0 | 81.9 | 86.2 | 80.7 | 83.2 | 81.6 |
| | 4. お酒を飲みに行く | 72.4 | 71.1 | 79.7 | 49.7 | 77.5 | 73.7 | 76.1 | 67.8 | 71.2 | 63.6 |
| | 5. 教科内容や教育技術について話す | 89.6 | 91.5 | 90.5 | 93.6 | 91.4 | 89.0 | 92.6 | 91.2 | 89.8 | 93.2 |
| | 6. よくできる生徒について話す | 80.2 | 82.5 | 81.2 | 75.9 | 85.0 | 87.6 | 82.1 | 78.5 | 82.3 | 80.3 |
| | 7. 問題のある生徒について話す | 96.1 | 94.9 | 94.3 | 96.4 | 93.6 | 97.7 | 96.0 | 92.5 | 95.5 | 94.9 |
| | 8. 部活動やその指導について話す | 74.2 | 78.3 | 77.3 | 80.6 | 80.7 | 83.3 | 78.1 | 79.4 | 74.8 | 74.3 |
| | 9. 教師間の人間関係について話す | 70.5 | 75.1 | 74.7 | 76.1 | 85.6 | 79.6 | 73.7 | 74.3 | 71.1 | 67.5 |
| | 10. 学校や教育のあり方について話す | 92.4 | 94.7 | 95.0 | 94.4 | 92.5 | 92.3 | 93.6 | 96.3 | 96.9 | 96.9 |
| | 11. 個人的なことについて話す | 79.1 | 78.8 | 76.7 | 83.9 | 82.9 | 84.2 | 82.6 | 73.4 | 77.6 | 74.0 |
| 11 学校内などですること（よく +かなりすること） | 1. 手作りの資料を使った授業をする | 56.4 | 53.4 | 52.0 | 56.8 | 56.1 | 53.8 | 50.5 | 48.8 | 51.3 | 56.1 |
| | 2. 小テストをする | 23.4 | 31.4 | 28.7 | 38.1 | 35.3 | 31.9 | 25.3 | 29.0 | 26.8 | 35.0 |
| | 3. 宿題を出す | 15.9 | 22.8 | 18.8 | 22.4 | 20.3 | 21.0 | 19.8 | 25.4 | 18.0 | 28.2 |
| | 4. 講義ノートを作る | 51.0 | 51.4 | 49.9 | 55.4 | 61.2 | 51.5 | 46.5 | 44.6 | 54.5 | 47.1 |
| | 5. 担当教科の専門書を読む | 59.7 | 60.8 | 60.8 | 60.6 | 61.1 | 60.5 | 48.0 | 58.9 | 67.1 | 66.2 |
| | 6. 雑誌や参考書の原稿を書く | 5.9 | 8.1 | 9.8 | 4.2 | 4.0 | 8.6 | 8.0 | 8.2 | 8.3 | 11.1 |
| | 7. 校内を巡視する | 27.1 | 19.1 | 20.3 | 16.5 | 17.2 | 18.7 | 18.0 | 15.0 | 22.5 | 22.6 |
| | 8. バイクの乗車について指導する | 33.9 | 13.6 | 16.8 | 5.8 | 8.9 | 13.5 | 14.5 | 14.9 | 14.8 | 15.5 |
| | 9. 欠席した生徒に電話する | 46.6 | 59.9 | 57.6 | 65.6 | 55.6 | 71.3 | 62.6 | 63.2 | 63.2 | 51.3 |
| | 10. 問題を起こした生徒の家庭訪問 | 41.7 | 22.5 | 22.5 | 22.6 | 15.0 | 22.0 | 22.8 | 23.7 | 23.3 | 27.5 |
| | 12 現在の学校について（不安 +かなり不安） | 1. 人間関係に気がつかう | 43.5 | 41.7 | 48.2 | 46.2 | 46.2 | 48.1 | 42.3 | 42.5 | 49.3 |
| 2. 異動が自由にできない | | 26.5 | 24.5 | 31.6 | 32.4 | 35.6 | 35.6 | 31.8 | 26.6 | 19.9 | 15.8 |
| 3. 理事や校長とうまくいっていない | | 10.9 | 11.1 | 10.4 | 8.6 | 13.3 | 13.3 | 13.0 | 9.5 | 10.1 | 11.1 |
| 4. 先輩の教師とうまくいっていない | | 5.6 | 6.1 | 4.5 | 3.6 | 9.0 | 9.0 | 8.5 | 5.7 | 3.8 | 4.3 |
| 5. 校風になじまない | | 10.3 | 9.7 | 11.9 | 17.5 | 17.5 | 11.9 | 9.5 | 10.4 | 6.4 | 5.7 |
| 6. 身分が十分に保障されていない | | 12.4 | 12.7 | 12.0 | 19.8 | 19.8 | 18.2 | 10.5 | 9.1 | 10.9 | 7.0 |
| 7. 同僚と給与の格差をつけられている | | 5.4 | 5.7 | 4.7 | 5.8 | 6.6 | 6.6 | 5.0 | 3.3 | 5.7 | 5.7 |
| 8. 努力しても報いられない | | 20.5 | 21.2 | 18.9 | 23.6 | 29.1 | 22.5 | 16.2 | 21.0 | 14.2 | 14.2 |
| 9. 補習授業などで勤務時間が長い | | 19.1 | 15.8 | 27.6 | 27.8 | 26.6 | 23.4 | 14.6 | 14.6 | 14.2 | 9.8 |
| 10. 学閥が幅をきかせている | | 5.8 | 4.9 | 8.3 | 8.3 | 7.1 | 3.0 | 4.2 | 8.9 | 4.3 | 4.3 |

| 質 問 項 目 | 公 立 全 体 | 私 立 全 体 | 性 別 | | 年 齢 | | | | | 別 | |
|---|---------|---------|------|------|-------|--------|--------|--------|--------|------|-------|
| | | | 男 性 | 女 性 | 30歳以下 | 31~34歳 | 35~39歳 | 40~44歳 | 45~49歳 | | 50歳以上 |
| | | | | | | | | | | | |
| 13 高校 の教 師と して 必要 なこ と +少 し必 要な こと | 56.7 | 38.7 | 38.8 | 33.6 | 36.4 | 35.9 | 37.8 | 46.0 | 29.9 | 42.4 | |
| | 61.1 | 39.6 | 40.8 | 36.6 | 39.4 | 32.5 | 40.6 | 44.1 | 45.5 | 38.0 | |
| | 24.0 | 10.8 | 11.3 | 9.4 | 8.9 | 6.2 | 11.4 | 9.0 | 13.3 | 14.4 | |
| | 18.4 | 15.0 | 15.7 | 13.2 | 15.0 | 12.5 | 11.9 | 16.0 | 19.8 | 15.4 | |
| | 80.6 | 80.9 | 79.9 | 83.3 | 81.6 | 84.7 | 83.5 | 81.3 | 83.2 | 75.3 | |
| | 41.5 | 42.8 | 40.9 | 47.3 | 36.9 | 41.6 | 42.8 | 44.8 | 56.5 | 40.8 | |
| | 45.2 | 45.4 | 45.1 | 45.9 | 38.4 | 50.3 | 49.5 | 46.7 | 49.0 | 43.3 | |
| | 89.2 | 89.8 | 90.1 | 89.2 | 83.5 | 89.0 | 95.0 | 92.5 | 94.9 | 88.5 | |
| | 41.8 | 45.6 | 43.7 | 50.7 | 43.4 | 42.6 | 48.0 | 59.1 | 45.3 | 40.2 | |
| | 19.4 | 19.0 | 18.1 | 21.0 | 17.2 | 13.9 | 18.3 | 25.7 | 23.7 | 17.7 | |
| | 38.4 | 34.2 | 35.9 | 30.0 | 40.9 | 37.8 | 33.2 | 34.5 | 31.9 | 28.5 | |
| | 24.6 | 24.7 | 26.5 | 20.4 | 27.3 | 24.8 | 23.9 | 30.6 | 28.2 | 18.0 | |
| | 71.7 | 48.3 | 49.5 | 45.4 | 50.6 | 48.8 | 51.8 | 50.0 | 54.8 | 40.4 | |
| | 85.8 | 78.9 | 78.4 | 80.2 | 73.8 | 77.5 | 79.2 | 84.8 | 83.5 | 78.3 | |
| | 96.3 | 91.3 | 89.6 | 95.4 | 93.1 | 89.9 | 93.0 | 93.4 | 92.4 | 88.0 | |
| 14 今感 じて いる +か い る な り 感 じ て い る | 39.6 | 29.9 | 30.1 | 29.3 | 20.4 | 17.2 | 23.9 | 26.3 | 39.5 | 45.9 | |
| | 26.0 | 29.3 | 25.9 | 37.6 | 48.4 | 33.9 | 26.4 | 23.1 | 24.2 | 19.5 | |
| | 16.2 | 12.2 | 12.2 | 12.3 | 18.7 | 10.6 | 10.5 | 4.7 | 6.4 | 16.2 | |
| | 35.6 | 23.9 | 24.0 | 23.6 | 25.8 | 24.5 | 23.0 | 20.8 | 20.4 | 25.9 | |
| | 18.4 | 17.5 | 15.4 | 22.6 | 30.2 | 19.6 | 16.6 | 11.3 | 11.5 | 13.1 | |
| | 11.2 | 9.3 | 9.0 | 10.2 | 18.0 | 12.5 | 8.4 | 6.6 | 2.5 | 6.0 | |
| | 23.1 | 15.6 | 25.4 | 16.2 | 36.7 | 29.4 | 25.0 | 22.8 | 23.1 | 17.7 | |
| | 8.6 | 10.2 | 10.1 | 10.5 | 18.6 | 9.6 | 6.0 | 7.0 | 10.3 | 8.2 | |
| | 74.6 | 69.7 | 66.1 | 78.3 | 70.6 | 77.4 | 70.8 | 73.1 | 73.7 | 59.9 | |
| | 62.7 | 62.4 | 58.0 | 73.2 | 67.7 | 63.0 | 67.3 | 66.1 | 66.1 | 51.3 | |
| | 15.9 | 15.0 | 13.0 | 19.7 | 21.8 | 22.0 | 10.9 | 12.7 | 10.8 | 11.0 | |
| 15 に現 在 の 学 校 | 8.1 | 8.1 | 9.2 | 5.4 | 7.9 | 4.8 | 8.0 | 4.8 | 8.2 | 12.3 | |
| | 51.8 | 51.8 | 50.9 | 53.8 | 44.8 | 51.2 | 50.0 | 56.1 | 41.1 | 60.1 | |
| | 35.6 | 35.6 | 35.9 | 34.9 | 41.2 | 36.8 | 37.5 | 36.2 | 48.2 | 24.0 | |
| | 4.5 | 4.5 | 4.0 | 5.9 | 6.1 | 7.2 | 4.5 | 2.9 | 2.5 | 3.6 | |
| 16 す校 現 定 るに 在 年 か 勤 務 学 で | 64.4 | 66.2 | 66.2 | 59.7 | 39.5 | 49.5 | 62.6 | 66.5 | 67.6 | 90.3 | |
| | 21.5 | 21.5 | 21.0 | 23.0 | 39.5 | 28.5 | 27.3 | 17.7 | 17.5 | 4.6 | |
| | 2.3 | 2.3 | 2.1 | 2.8 | 5.2 | 4.5 | 1.5 | 2.4 | 0.6 | 0.0 | |
| | 11.8 | 11.8 | 10.7 | 14.5 | 15.8 | 17.5 | 8.6 | 13.4 | 14.3 | 5.1 | |

| 質問項目 | 公立全体 | 私立全体 | 性別 | | 年齢 | | | | | | 別 | |
|---|------|------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|-------|------|------|
| | | | 男 | 女 | 30歳以下 | 31~34歳 | 35~39歳 | 40~44歳 | 45~49歳 | 50歳以上 | | |
| 17 新たに卒業し、 選ばれる 高校に 進学した 生徒 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| 18 性別 | 80.5 | 71.0 | 100.0 | 0.0 | 55.7 | 75.2 | 81.2 | 72.6 | 72.3 | 72.3 | 27.7 | 27.7 |
| | 19.5 | 29.0 | 0.0 | 100.0 | 44.3 | 24.8 | 18.8 | 27.4 | 27.7 | 27.7 | 27.7 | 27.7 |
| 19 年 齢 | 3.0 | 4.7 | 3.0 | 8.9 | 23.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 17.7 | 14.9 | 12.4 | 21.0 | 76.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 17.7 | 14.7 | 15.6 | 12.6 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 18.8 | 14.1 | 16.2 | 9.2 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 13.0 | 15.1 | 15.4 | 14.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 12.5 | 11.1 | 11.3 | 10.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 16.6 | 19.4 | 19.3 | 19.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 75.2 |
| | 0.7 | 6.0 | 6.8 | 4.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 23.8 |
| 20 担 当 教 科 | 14.4 | 17.2 | 14.4 | 23.8 | 18.6 | 16.3 | 19.7 | 18.2 | 13.3 | 16.3 | 16.3 | 16.3 |
| | 15.5 | 18.1 | 16.7 | 21.3 | 22.5 | 20.5 | 18.3 | 13.5 | 17.1 | 16.1 | 16.1 | 16.1 |
| | 11.9 | 14.1 | 16.5 | 8.2 | 16.8 | 12.9 | 17.8 | 13.5 | 10.8 | 12.5 | 12.5 | 12.5 |
| | 14.3 | 16.5 | 19.9 | 8.5 | 10.7 | 17.2 | 12.9 | 16.3 | 23.4 | 19.6 | 19.6 | 19.6 |
| | 13.3 | 14.5 | 16.5 | 9.7 | 13.2 | 14.4 | 14.9 | 15.3 | 12.0 | 16.1 | 16.1 | 16.1 |
| | 7.6 | 3.5 | 3.3 | 4.1 | 2.5 | 4.3 | 4.0 | 3.7 | 5.1 | 2.8 | 2.8 | 2.8 |
| | 7.6 | 3.5 | 0.0 | 12.1 | 3.2 | 2.4 | 2.0 | 4.2 | 1.9 | 5.5 | 5.5 | 5.5 |
| | 11.1 | 8.0 | 7.6 | 8.9 | 10.0 | 7.7 | 6.9 | 8.8 | 12.0 | 5.0 | 5.0 | 5.0 |
| | 11.9 | 4.6 | 5.1 | 3.4 | 2.5 | 4.3 | 3.5 | 6.5 | 4.4 | 6.1 | 6.1 | 6.1 |
| 21 出 身 高 校 | 12.0 | 12.0 | 11.5 | 13.1 | 8.2 | 12.9 | 14.5 | 10.7 | 11.3 | 14.2 | 14.2 | 14.2 |
| | 30.3 | 30.3 | 30.9 | 28.9 | 36.1 | 37.6 | 30.5 | 32.1 | 29.6 | 20.8 | 20.8 | 20.8 |
| | 56.2 | 56.2 | 56.5 | 55.6 | 53.9 | 48.1 | 54.5 | 55.8 | 58.5 | 62.8 | 62.8 | 62.8 |
| | 1.3 | 1.3 | 1.1 | 1.7 | 1.4 | 1.4 | 0.5 | 1.4 | 0.0 | 1.9 | 1.9 | 1.9 |
| | 0.2 | 0.2 | 0.0 | 0.7 | 0.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.6 | 0.6 | 0.6 |
| 22 出 身 大 学 | 8.4 | 8.4 | 7.5 | 10.4 | 9.3 | 5.7 | 5.9 | 5.6 | 5.7 | 13.3 | 13.3 | 13.3 |
| | 12.5 | 12.5 | 13.0 | 11.1 | 9.7 | 10.0 | 10.4 | 13.0 | 15.7 | 15.5 | 15.5 | 15.5 |
| | 9.5 | 9.5 | 9.0 | 10.9 | 9.3 | 12.0 | 7.4 | 10.2 | 10.1 | 8.9 | 8.9 | 8.9 |
| | 67.3 | 67.3 | 69.0 | 63.2 | 70.3 | 70.4 | 74.8 | 69.3 | 66.6 | 58.1 | 58.1 | 58.1 |
| | 0.5 | 0.5 | 0.0 | 1.7 | 0.0 | 0.5 | 0.0 | 0.5 | 0.0 | 1.4 | 1.4 | 1.4 |
| | 1.8 | 1.8 | 1.5 | 2.7 | 1.4 | 1.4 | 1.5 | 1.4 | 1.9 | 2.8 | 2.8 | 2.8 |

*1 前回の調査では「芸術・家庭」

| 質問項目 | 公立全体 | 私立全体 | 性別 | | 年齢 | | | | 別 | | |
|--|-------------------|------|------|------|-------|--------|--------|--------|------|--------|-------|
| | | | 男性 | 女性 | 30歳以下 | 31~34歳 | 35~39歳 | 40~44歳 | | 45~49歳 | 50歳以上 |
| | | | | | | | | | | | |
| 23 出身大学院 | 1. 行っていない | 78.6 | 75.0 | 87.5 | 82.3 | 72.8 | 72.2 | 76.4 | 75.0 | 85.7 | |
| | 2. 教育系大学院(国公立) | 1.3 | 1.2 | 1.5 | 2.5 | 2.4 | 1.0 | 1.4 | 0.6 | 0.0 | |
| | 3. 教育系大学院(私立) | 0.8 | 1.0 | 0.2 | 0.4 | 0.5 | 1.5 | 0.5 | 1.3 | 0.9 | |
| | 4. 教育系以外の大学院(国公立) | 3.0 | 3.0 | 2.9 | 1.4 | 6.2 | 2.0 | 5.2 | 2.6 | 1.7 | |
| | 5. 教育系以外の大学院(私立) | 14.2 | 17.6 | 5.9 | 12.3 | 16.2 | 20.8 | 14.6 | 19.2 | 8.3 | |
| | 6. その他 | 2.1 | 2.2 | 2.0 | 1.1 | 1.9 | 2.5 | 1.9 | 1.3 | 3.4 | |
| | 7. その他 | 18.9 | | | | | | | | | |
| 前回 出身大学 | 1. 教育系大学(国公立) | 8.4 | | | | | | | | | |
| | 2. 教育系大学(私立) | 19.4 | | | | | | | | | |
| | 3. 教育系以外の大学(国公立) | 43.3 | | | | | | | | | |
| | 4. 教育系以外の大学(私立) | 7.9 | | | | | | | | | |
| | 5. 大学院 | 0.4 | | | | | | | | | |
| | 6. 短期大学 | 1.7 | | | | | | | | | |
| | 7. その他 | | | | | | | | | | |
| 24 務のか新 が動ら卒 た直 字前 校に動 につ務 ついて いてい | 1. はい | 55.4 | 54.9 | 56.6 | 69.5 | 58.4 | 59.4 | 51.6 | 50.0 | 44.9 | |
| | 2. いいえ | 44.6 | 45.1 | 43.4 | 30.5 | 41.6 | 40.6 | 48.4 | 50.0 | 55.1 | |
| | 1. 公立高校(全日制) | 9.6 | 10.4 | 7.7 | 7.1 | 10.5 | 14.6 | 6.7 | 6.1 | 11.3 | |
| | 2. 他の私立高校(全日制) | 34.3 | 36.3 | 29.3 | 36.5 | 42.9 | 43.9 | 37.1 | 19.5 | 30.3 | |
| | 3. 他の私立中学校 | 2.2 | 1.3 | 4.4 | 1.2 | 1.2 | 0.0 | 1.9 | 1.2 | 4.6 | |
| | 4. 公立の小・中学校 | 7.6 | 7.0 | 8.8 | 9.4 | 3.5 | 3.7 | 6.7 | 9.8 | 9.7 | |
| | 5. 定時制高校 | 0.9 | 1.1 | 0.6 | 1.2 | 0.0 | 0.0 | 1.0 | 1.2 | 1.5 | |
| 6. その他 | 45.4 | 43.9 | 49.2 | 44.6 | 41.9 | 37.8 | 46.6 | 62.2 | 42.6 | | |
| 25 て現 在の 年 目 が は 赴 任 し | 1. 1~3年目 | 31.5 | 13.9 | 11.9 | 18.9 | 12.4 | 5.4 | 2.3 | 1.3 | 2.2 | |
| | 2. 4~6年目 | 31.0 | 12.0 | 11.5 | 13.1 | 28.7 | 18.1 | 8.4 | 7.5 | 3.8 | |
| | 3. 7~9年目 | 16.8 | 13.2 | 13.4 | 12.9 | 19.0 | 33.8 | 13.4 | 7.5 | 5.0 | |
| | 4. 10~15年目 | 14.0 | 17.9 | 18.4 | 16.7 | 0.0 | 35.7 | 57.0 | 18.3 | 8.8 | |
| | 5. 16~20年目 | 2.7 | 13.2 | 12.7 | 14.6 | 0.0 | 0.0 | 15.3 | 48.4 | 19.5 | |
| | 6. 21~29年目 | 3.3 | 20.0 | 21.0 | 17.2 | 0.0 | 0.0 | 0.5 | 16.0 | 61.0 | |
| | 7. 30年目以上 | 0.7 | 9.8 | 11.1 | 6.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.6 | |
| 26 勤務地 | 1. 東京都 | 27.2 | 65.5 | 64.7 | 67.3 | 64.0 | 61.5 | 70.8 | 65.6 | 64.8 | |
| | 2. 神奈川県 | 28.1 | 15.2 | 15.9 | 13.6 | 14.4 | 13.3 | 10.4 | 14.0 | 13.8 | |
| | 3. 埼玉県 | 21.0 | 6.7 | 6.8 | 5.5 | 7.9 | 8.1 | 6.9 | 5.0 | 6.3 | |
| | 4. 千葉県 | 23.4 | 12.6 | 12.6 | 12.6 | 13.7 | 17.1 | 11.9 | 14.4 | 15.1 | |
| | 5. その他 | 0.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | |

| 質 問 項 目 | 公 立 全 体 | 私 立 全 体 | 性 別 | | 年 齢 | | | | | 別 | |
|---|---------|---------|------|------|-------|--------|--------|--------|--------|------|-------|
| | | | 男 | 女 | 30歳以下 | 31~34歳 | 35~39歳 | 40~44歳 | 45~49歳 | | 50歳以上 |
| | | | | | | | | | | | |
| 27 併 設 校 | | 17.0 | 15.5 | 20.5 | 17.1 | 21.1 | 17.3 | 13.6 | 13.3 | 18.0 | |
| | | 30.0 | 31.3 | 26.8 | 28.6 | 33.5 | 32.7 | 27.2 | 31.0 | 28.7 | |
| | | 11.7 | 14.5 | 5.1 | 8.9 | 9.1 | 9.4 | 14.6 | 17.1 | 12.7 | |
| | | 20.0 | 21.6 | 16.2 | 21.8 | 19.6 | 20.8 | 16.9 | 19.0 | 20.7 | |
| | | 21.3 | 17.1 | 31.4 | 23.6 | 16.7 | 19.8 | 27.7 | 19.6 | 19.9 | |
| 28 者4 の年制 割合 大学進学 | 61.2 | 38.3 | 35.6 | 44.3 | 43.7 | 40.1 | 37.8 | 36.4 | 32.3 | 36.5 | |
| | 13.8 | 14.4 | 11.9 | 20.7 | 16.1 | 12.0 | 16.4 | 15.4 | 12.0 | 13.7 | |
| | 8.5 | 13.7 | 14.9 | 10.9 | 7.9 | 16.3 | 13.4 | 13.6 | 17.7 | 15.4 | |
| | 4.7 | 9.1 | 9.8 | 7.3 | 9.7 | 8.6 | 8.0 | 11.7 | 5.7 | 9.5 | |
| | 10.4 | 23.7 | 27.3 | 15.1 | 20.1 | 22.0 | 24.4 | 22.9 | 31.0 | 24.6 | |
| | 1.4 | 0.8 | 0.5 | 1.7 | 2.5 | 1.0 | 0.0 | 0.0 | 1.3 | 0.3 | |
| 29 セン ター の 割合 の 割合 | 76.1 | 67.0 | 66.5 | 67.9 | 67.5 | 68.4 | 69.9 | 67.2 | 65.6 | 64.7 | |
| | 9.6 | 8.0 | 8.0 | 8.1 | 6.5 | 8.3 | 7.0 | 7.5 | 8.3 | 9.8 | |
| | 4.7 | 3.4 | 3.6 | 2.9 | 5.8 | 2.9 | 2.5 | 1.9 | 4.5 | 2.8 | |
| | 4.1 | 1.1 | 1.3 | 0.7 | 0.7 | 1.0 | 2.5 | 1.9 | 0.0 | 0.8 | |
| | 1.1 | 1.5 | 2.0 | 0.2 | 0.7 | 0.0 | 1.5 | 2.3 | 2.5 | 2.0 | |
| | 4.4 | 5.8 | 5.2 | 7.4 | 9.4 | 6.3 | 4.5 | 2.8 | 7.0 | 4.5 | |
| | 53.4 | 41.4 | 47.6 | 26.0 | 53.6 | 46.2 | 44.3 | 46.2 | 39.0 | 25.7 | |
| 30 い る 問 を し 活 動 て | 43.0 | 44.8 | 38.5 | 60.4 | 38.6 | 44.3 | 41.8 | 47.2 | 46.6 | 49.5 | |
| | 1.4 | 1.3 | 1.1 | 1.9 | 0.7 | 1.4 | 2.0 | 0.5 | 0.6 | 2.2 | |
| | 2.2 | 12.5 | 12.8 | 11.7 | 7.1 | 8.1 | 11.9 | 6.1 | 13.8 | 22.6 | |
| | | 2.2 | 2.6 | 0.9 | 0.0 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | 0.7 | 7.0 | |
| 31 現 在 主 任 ま た は 部 長 職 | 5.3 | 5.9 | 3.5 | 3.5 | 0.0 | 1.1 | 4.8 | 4.5 | 8.2 | 10.5 | |
| | 2.0 | 2.4 | 0.9 | 0.9 | 0.9 | 3.2 | 1.6 | 2.0 | 1.4 | 2.6 | |
| | 5.7 | 5.9 | 5.2 | 5.2 | 3.0 | 5.3 | 2.1 | 7.1 | 8.2 | 7.9 | |
| | 5.2 | 5.1 | 5.5 | 5.5 | 2.6 | 5.9 | 5.3 | 6.6 | 5.5 | 5.5 | |
| | 1.2 | 0.6 | 0.6 | 2.9 | 2.2 | 1.1 | 1.1 | 1.5 | 1.4 | 0.6 | |
| | 11.4 | 11.8 | 10.1 | 10.1 | 5.2 | 5.9 | 9.0 | 17.2 | 18.5 | 13.4 | |
| | 17.0 | 17.8 | 15.0 | 3.9 | 11.7 | 20.2 | 19.7 | 24.0 | 24.0 | 22.4 | |
| | 50.0 | 47.9 | 56.0 | 82.2 | 65.3 | 55.4 | 40.9 | 32.1 | 30.1 | 30.1 | |
| | 22.7 | 28.3 | 22.7 | 42.0 | 76.3 | 37.8 | 16.9 | 14.5 | 12.0 | 7.2 | |
| 32 い 結 る 婚 か し て | 12.7 | 11.7 | 10.2 | 15.3 | 17.6 | 17.7 | 12.9 | 8.9 | 5.7 | 7.2 | |
| | 64.1 | 59.2 | 66.7 | 40.8 | 6.1 | 44.0 | 69.7 | 75.7 | 80.4 | 84.2 | |
| | 0.5 | 0.8 | 0.4 | 1.9 | 0.0 | 0.5 | 0.5 | 0.9 | 1.9 | 1.4 | |
| | | | | | | | | | | | |

*1 前回の調査では「共通一次」

*2 「2割以下」